◇┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳◆

**食科協かわら版　No.426　（2024年度No.1）**　 　2024/1/5

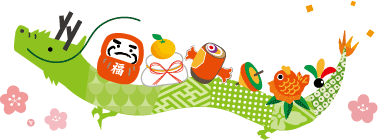
食の行政情報ならびに食中毒情報をお伝えする食科協のメールマガジン

食中毒情報は１回限り　行政情報は原則2回の掲載で削除します

新しいものは*NEW*マークがついております　期限設定のある記事は　期限終了まで掲載

**青字をスクロール　Ctrlキーを押しながらクリック　もしくは右クリックでハイパーリンクを開く**

◇┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻◆



**あけましておめでとうございます　本年もよろしくお願いいたします**

|  |  |
| --- | --- |
| **目次** | **ページ** |
| 1. [**食科協関係**](#食科協関係) | **2** |
| 1. [**厚生労働省関係**](#厚生労働省関係) | **2-11** |
| **3**[**食品安全委員会関係**](#食品安全委員会関係) | **11** |
| **4**[**農水省関係**](#農水省関係) | **12-21** |
| **5**[**消費者庁関連**](#消費者庁関連)**リコール情報** | **21-29** |
| **6**[**食中毒・感染症**](#食中毒・感染症)  **細菌性食中毒→ウイルス性食中毒→寄生虫→自然毒→感染症→違反品の回収→他**  **各項目発生順で記載　菌種については月により掲載位置が変動しています** | **29-44** |

**１．****[食科協関係](#食科協関係)**

12月26日 　かわら版425号を発行・ かわら版ニュース＆トピックス396号を発行

1月5日　 　 かわら版427号を発行・かわら版ニュース＆トピックス396号を発行

1月5日　 　 ニュースレター245号を発行

**２.****[厚生労働省関係](#厚生労働省関係)**　<https://www.mhlw.go.jp/index.html>

**★***Link***傍聴・参加が可能な審議会等の会議一覧　ご案内しきれないときもございます**<https://www.mhlw.go.jp/topics/event/open_doors.html>

**★***Link***副反応疑い報告の状況について（とても詳しい資料です）**

**厚生科学審議会 (予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会)**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-kousei_284075.html>

**★***Link***2022年3月31日　国立国際医療研究センター　COVIREGI-JPダッシュボード**

COVID-19 レジストリ研究　“ダッシュボード” 本データの注意点  
<https://www.ncgm.go.jp/pressrelease/2021/20220331.html>  
ダッシュボード  
<https://app.powerbi.com/view?r=eyJrIjoiNGJlMmZmNDctMDk0NC00MjkwLTk0NDgtYmM1MGFkYjNhN2RiIiwidCI6IjZmOGFmOWFkLTU2NDctNGQ2My1hYjIxLWRiODk0NTM3MzJmNyJ9>  
NCGM COVID-19 治療フローチャート（中等症以上成人) <https://www.ncgm.go.jp/covid19/pdf/20220322NCGM_COVID-19_Flow_chart_v5.pdf>

**■***NEW***食品中の放射性物質の調査結果（令和５年２～３月調査分）　2023/12/28**

**～放射線量は基準値の設定根拠である年間線量１ミリシーベルトの0.1％程度～**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000205937_00024.html>

厚生労働省は、国立医薬品食品衛生研究所に委託して、令和５年２月から３月に、全国15地域で、実際に流通する食品を購入し、食品中の放射性セシウムから受ける年間放射線量を推定しました。

　調査の結果、食品中の放射性セシウムから、人が１年間に受ける放射線量は、0.0005～0.0010ミリシーベルト／年と推定され、これは現行基準値の設定根拠である年間上限線量１ミリシーベルト／年の0.1％程度であり、極めて小さいことが確かめられました。

　なお、放射性セシウム（Cs-134とCs-137の合計）濃度が0.5Bq/kg以上となった試料については、放射性ストロンチウム（Sr-90）及びプルトニウム（Pu-238、Pu-239＋240）も調査することとしています。

今回、調査対象となる放射性セシウム濃度が0.5Bq/kg以上の試料はありませんでした。

　 厚生労働省では、今後も継続的に同様の調査を行い、食品の安全性の検証に努めていきます

参考：　東京電力福島第一原発の事故に由来して、食品中の放射性物質から長期的に受ける線量の大半は、放射性セシウムによるものとされています。

資料

　　（別添）　食品中の放射性セシウムから受ける放射線量の調査結果　（令和５年２～３月調査分）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11134000/001183461.pdf>

**■***NEW***危険ドラッグの成分１物質群を新たに指定薬物に指定**

**～指定薬物等を定める省令を公布しました～　2023/12/27**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000212475_00053.html>

厚生労働省は、本日付けで危険ドラッグに含まれる別紙の１物質群を新たに「指定薬物」（※１）として指定する省令（※２）を公布し、令和６年１月６日に施行することとしましたので、お知らせします。

新たに指定された１物質群は、昨日（12月26日）の薬事・食品衛生審議会薬事分科会指定薬物部会において、指定薬物とすることが適当とされた物質であるため、早急に指定（※３）を行うこととなります。

施行後は、これらの物質とこれらの物質を含む製品について、医療等の用途以外の目的での製造、輸入、販売、所持、使用等が禁止されます。

　なお、これらの物質は海外でも流通している物質であり、厚生労働省は危険ドラッグが海外から輸入され、乱用されることのないよう水際（輸入）対策を強化していく方針です。

また、今後、インターネットによる販売も含め、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づく無承認無許可医薬品としての指導取締りも強化していく方針です。

危険ドラッグについては、事業者の皆様には、販売、購入、輸入等をしないよう強く警告いたします。

※１　厚生労働大臣は、中枢神経系への作用を有する蓋然性が高く、人の身体に使用された場合に保健衛生上の危害が発生するおそれのある物を「指定薬物」として指定する（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第２条第15項）。指定薬物は、製造、輸入、販売、所持、使用等が禁止されている（罰則：３年以下の懲役または300万円以下の罰金。業としての場合は５年以下の懲役または500万円以下の罰金）。

※２　医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第二条第十五項に規定する指定薬物及び同法第七十六条の四に規定する医療等の用途を定める省令の一部を改正する省令（令和５年厚生労働省令第166号）

※３　部会において指定薬物とすることが適当とされた物質については、使用による健康被害等を防止するため、パブリックコメントの手続きを省略し、指定薬物として早急に指定することとしている。

PDF 別紙（PDF）<https://www.mhlw.go.jp/content/11126000/001183861.pdf>

**■***NEW***ドイツ及びスウェーデンから輸入される牛肉等に関する措置を見直しました　2023/12/27**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37089.html>

　　ドイツ及びスウェーデンから輸入される牛肉等について、食品安全委員会の食品健康影響評価結果を踏まえ、ドイツ政府及びスウェーデン政府とそれぞれ協議等を行った結果、本日、輸入にかかる措置を見直すこととしました。

経緯

　ＢＳＥ発生国（食品健康影響評価の結果に基づき、安全性が確保されていると認められる国又は地域を除く。）から輸入される牛肉、牛内臓及びこれらを原材料とする牛肉加工品については、平成13年２月から輸入手続を停止しているところです。

ドイツから輸入される牛肉等については、令和５年11月に食品安全委員会から通知された食品健康影響評価結果を踏まえ、ドイツ政府との協議及び関連施設の現地調査等を実施し、今般、ドイツから輸入される牛肉等の輸入手続を再開することとしました。

また、スウェーデンから輸入される牛肉等については、輸入条件を設定し30か月齢以下の牛肉等に限り、平成28年２月26日から輸入を再開しているところです。

令和５年11月に食品安全委員会から通知された食品健康影響評価の結果を踏まえ、スウェーデン政府との協議及び対日輸出認定施設の現地調査等を実施し、今般、スウェーデンから輸入される牛肉等の輸入条件を見直すこととしました。

輸入条件

輸入が認められない部位の範囲は、全月齢の扁桃及び回腸（盲腸との接続部分から２メートルの部分に限る。）並びに30か月齢超の頭部（舌、頬肉、皮及び扁桃を除く。）、脊髄及び脊柱とする。

　注）上記の条件については、アイルランド、カナダ、米国、フランス、デンマーク、フィンランド、スペイン、オーストリアと同様のものです。

**■***NEW***今冬の食品衛生一斉監視実施結果（中間報告）　2023/12/26　東京都**

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/12/26/01.html>

**■***NEW***WHO、アルコールと砂糖入り甘味飲料への増税を各国に要請**

**2023/12/26 　ESG,　 佐藤先生からいただいた情報です**

<https://esgjournaljapan.com/world-news/34963>

12月5日、世界保健機関（WHO）は、アルコールや砂糖入り甘味飲料（SSB）などの不健康な製品への課税率が世界的に低いことを示す新たなデータを発表した。すべての砂糖入り甘味飲料とアルコール飲料に物品税を適用すべきであると勧告。WHOはまた、各国を支援するため、アルコール税の政策と運営に関する技術マニュアルも発表している。

世界では、毎年260万人が飲酒により死亡し、800万人以上が不健康な食事により死亡している。

108カ国が何らかの砂糖入り甘味飲料に課税しているが、世界平均では、特定の消費者製品に指定された税である物品税は、炭酸飲料の価格のわずか6.6％にすぎない。また、少なくとも148カ国が国レベルでアルコール飲料に物品税を適用しているが、ワインは少なくとも22カ国で物品税が免除されており、そのほとんどはヨーロッパ地域である。

2017年の調査によると、アルコール価格を50％引き上げる税金は、50年間で2,100万人以上の死亡を回避し、約17兆米ドルの追加収入をもたらすという。これは、世界最大の経済大国のうち8カ国の1年間の総政府収入に相当する。

WHOとブルームバーグ・フィランソロピーが共同で実施した最近のギャラップ世論調査では、すべての国の調査対象者の大多数が、アルコールや砂糖入り甘味飲料のような不健康な製品への増税を支持していることが明らかとなっている。

【参照ページ】

（原文）WHO calls on countries to increase taxes on alcohol and sugary sweetened beverages

<https://www.who.int/news/item/05-12-2023-who-calls-on-countries-to-increase-taxes-on-alcohol-and-sugary-sweetened-beverages>

（日本語参考訳）WHO、アルコールと砂糖入り甘味飲料への増税を各国に要請

<https://www.who.int/news/item/05-12-2023-who-calls-on-countries-to-increase-taxes-on-alcohol-and-sugary-sweetened-beverages>

**■***NEW***⾷品ロス削減⽬標達成に向けた施策パッケージ概要　2023/12/22**

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/conference/assets/consumer_education_cms201_231222_010.pdf>

**■食品に残留する農薬等の監視指導に係る留意事項について　2023/12/18**

**健生食監発 1218 第３号　厚生労働省**

<https://www.mhlw.go.jp/content/001180527.pdf>

　　食品に残留する農薬、飼料添加物及び動物用医薬品に係るポジティブリスト制度に関する監視指導については、「食品に残留する農薬等の監視指導に係る留意事項について」（平成 18 年５月 29 日付け食安監発第 0529001 号）（以下「留意事項通知」という。）により留意事項を示しているところです。

その考え方は、抗生物質又は化学的合成品たる抗菌性物質（以下単に「抗菌性物質」という。）についても同様であると考えられるところ、今般、一般社団法人日本乳業協会から別添の要望があったことも踏まえ、下記のとおり、改めて監視指導上の留意点等についてお示ししますので、ご配慮方お願いします。

記

１ 抗生物質又は抗菌性物質の食品への残留については、乳及び乳製品の成分規格等に関する省令（昭和 26 年厚生省令第 52 号）及び食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）において、「含有してはならない」と規定されているが、通常その判断には、通知等で示された試験法により当該物質が定量限界以上で検出された場合に、当該物質を含有していると判断するものであること。

２ 抗生物質又は抗菌性物質が検出又は基準を超えて残留する食品が発見され、当該食品を原材料にして製造加工が行われた食品があることが判明した場合、留意事項通知の２（２）に示しているように、当該食品の配合割合、製造加工方法、その他の原材料への当該物質の使用の有無などを調べ、製造加工された食品において当該物質が定量限界以上で検出される可能性について確認すること。検出する可能性がないものについては、食品衛生法第 59 条に基づく対応、行政指導等の措置を取る必要はないと認められる場合もあることに留意すること。

なお、食品衛生法違反の判断に際しては、当該食品全体を代表する検体を採取していることを確認した上で、対象となる範囲（ロット）を特定し、必要に応じて、当該食品を使用して製造加工された食品について検査又は試験を実施し、当該物質を含有しているか否かを確認すること。

**■ふぐの取扱いに係る監視指導の強化について　2023/12/6　健生食監発 1206 第1号**

**厚生労働省**

<https://www.mhlw.go.jp/content/001179724.pdf>

　　ふぐの衛生確保については、「フグの衛生確保について」（昭和 58 年 12 月２日付け環乳第 59 号）により通知するとともに、その監視指導強化を図るよう、「フグの取扱いに係る監視指導の強化について」（平成 19 年 12 月 26 日付け食安監発第 1226003号）及び「フグの取扱いに係る監視指導の強化について」（平成 29 年３月 24 日付け生食監発 0324 第２号）により通知しているところです。

今般、飲食店において、ふぐ処理者の資格を有する営業者が、ふぐの肝臓を提供してはならないことを認識しつつも、自身の経験から少量であれば大丈夫との考えのもと、一部の顧客に養殖トラフグの肝臓を提供したことによる食中毒が発生しました。

つきましては、ふぐの消費量がピークとなる冬季を迎えていることから、改めてふぐを取り扱う施設及び消費者に対し、天然、養殖を問わず、一般にふぐの肝臓は有毒部位であり、決して提供又は喫食しないよう指導及び周知等することについて対応方よろしくお願いします。

（参考）厚生労働省ホームページ

○安全なフグを提供しましょう

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000094363.html>

**■製品安全誓約（日本国）の対象に有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律が加わります　2023/12/25**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37043.html>

　　製品安全誓約（日本国）は、OECDが公表した「製品安全誓約の声明」を踏まえて、リコール製品や安全ではない製品が生命・身体に及ぼすリスクから消費者をこれまで以上に保護することを目的として、令和５年（2023年）６月29日に、消費者庁、総務省消防庁、経済産業省及び国土交通省といった消費者向け製品の関係省庁とオンラインマーケットプレイスの運営事業者により策定された日本版「製品安全誓約」であり、製品安全に係る法的枠組みを超えた「官民協働の自主的な取組」です。

　今回、消費者向け製品の関係省庁として、厚生労働省が新たに加わることとなりました。対象となる法律は「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」です。

　別添のとおり、消費者庁・経済産業省と共同で報道発表を実施しておりますので、お知らせいたします。

（参考）消費者庁ホームページ「製品安全誓約(日本国)」

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/product_safety_pledge/>

【別添】製品安全誓約（日本国）に新たに加わる省庁（法律）について

<https://www.mhlw.go.jp/content/11909500/001182545.pdf>

**■食品に関するリスクコミュニケーション「輸入食品の安全性確保に関する意見交換会」を開催します　１月26日に大阪、１月30日に東京で開催。参加者を募集　2023/12/21**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/1111212865_00036.html>

　　厚生労働省は、食品に関するリスクコミュニケーション「輸入食品の安全性確保に関する意見交換会」を、１月26日（金）に大阪で、１月30日（火）に東京で開催します（事前申込制、参加無料）。このた　び、本意見交換会への参加者を募集します。

　今回の意見交換会では、令和６年度の輸入食品監視指導計画（案）や輸出国での衛生確保対策などについて、行政が情報提供を行うとともに、輸入食品の安全性確保に関する自身の取組みについて食品関係事業者が講演を行います。その後、消費者、事業者、行政と参加者との間で輸入食品の安全性確保の取組みについて意見交換をします。

　　詳しくは、次ページ以降の開催概要と添付資料をご覧ください。

参考

　　厚生労働省では、輸入食品の安全性を確保するため、毎年度「輸入食品監視指導計画」を定め輸出国での衛生対策の推進や輸入時の検査などの監視指導に取り組んでいます。また、消費者、事業者、行政の三者が集まり、輸入食品の安全性確保に関する情報・意見交換を通じて、相互理解を目指すための活動を毎年行っています（食品に関するリスクコミュニケーション）。

　輸入食品の安全性確保に関する情報は、厚生労働省のウェブサイトに掲載しています。

輸入食品監視業務

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/shokuhin/yunyu_kanshi/index.html>

別紙１　開催案内チラシ（大阪会場）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11131500/001180491.pdf>

別紙２　開催案内チラシ（東京会場）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11131500/001180493.pdf>

　１　開催概要

テーブル

自動的に生成された説明

会場　大阪　[https://www.civi-c.co.jp/access.html#kita](https://www.civi-c.co.jp/access.html" \l "kita)

　　　　　参加申込書　<https://www.mhlw.go.jp/content/11131500/001180491.pdf>

　　　　　東京　[https://www.civi-c.co.jp/access\_t.html#nihonbashi](https://www.civi-c.co.jp/access_t.html" \l "nihonbashi)

　　　　　参加申込書　<https://www.mhlw.go.jp/content/11131500/001180493.pdf>

　２　主催　厚生労働省

３　募集人数

大阪会場 100人（先着順）

東京会場 170人（先着順）

４　プログラム内容（各会場共通）

（１）情報提供・講演

１．「輸入食品の安全性確保について（令和６年度輸入食品監視指導計画（案））」

厚生労働省 健康・生活衛生局 食品監視安全課 輸入食品安全対策室　室長 福島 和子

２．「輸入食品の安全性確保の取り組み（輸出国での衛生確保対策について）」

厚生労働省 健康・生活衛生局 食品監視安全課 輸入食品安全対策室

　輸出国査察専門官 白坂 信和

３．「輸入食品の安全・安心にかかる事業者の取り組みについて」

株式会社ニチレイフーズ 品質保証部 海外品質管理グループ

グループリーダー 坂井 利彦 氏

（２）意見交換

ファシリテーター

公益社団法人　日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

専門委員　　蒲生　恵美　氏

※登壇者：上記情報提供・講演者の３人

５　参加申込要領

（１）申し込み方法

　　　参加をご希望される方は、インターネット、電子メールのいずれかの方法でお申し込みください。幅広い参加者を募る観点から、同一団体からの複数名の参加はご遠慮いただく場合があります。

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション, メール

自動的に生成された説明

　大阪会場

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfj6a6TXMMm4GJp8Q1TZbXiCyGM4ZZNx5279gFFjEigPAsfuQ/viewform?edit_requested=true>

東京会場

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSehAAIZkOcM1T4vgfOFO0eS8zIJ4WY01MTyV1i7v6WjA6g5GA/viewform?edit_requested=true>

　電子メール　[kikakujouhou@mhlw.go.jp](mailto:kikakujouhou@mhlw.go.jp)

　　・電話でのお申し込みは受け付けておりません。

・規定人数に達した場合、申し込み締め切り日より前に募集を締め切ることがありますので、あらかじめご了承ください。

・お申し込みによって得た個人情報は厳重に管理し、参加確認に関する問い合わせなど、ご本人への連絡を行う場合に限り利用します。

（２）留意事項

１．参加の可否：

・参加可能な方にのみ「参加証」をお送りします。「参加証」は、当日ご持参いただくか、携帯電話などの端末に画面表示させる形でご用意ください。

・１月23日（火）までに何も連絡がなかった場合には、お手数ですが「７　申し込みに関するお問い合わせ先」までご連絡ください。

２．公開の原則：

・本会は公開ですので、発言者、参加者の写真や映像が報道・配信される可能性があることをあらかじめご了承ください。

・意見交換会の内容（配付資料、議事録など）は、終了後に厚生労働省のウェブサイトで公表する予定です。なお、希望されない方にあっては個人が特定できないように配慮します

３．留意事項：

・意見交換会への参加にあたっては、次の留意事項を遵守してください。これらを守っていただけない場合は、参加をお断りする場合があります。

・携帯電話などの電源はお切りいただくか、マナーモードに設定ください。

・意見交換会の開催中は、静粛を旨とし、以下の行為を慎んでください。

(ア)発言者の発言に対する賛否の表明または拍手

(イ)意見交換時における長時間の発言

(ウ)開催中の入退室（ただし、やむを得ない場合を除く）

(エ)会場でのカメラ、ビデオ、ICレコーダーなどを使った録音や録音機器の使用（報道関係者を除く）

(オ)飲食（お茶などを除く）、喫煙

・銃砲刀剣類その他危険なものを会場に持ち込まないでください。

・会場参加における新型コロナウイルス感染症等の対策について

(ア)当日体調不良や、発熱等の風邪症状がある場合は、参加を控えてください

(イ)着席位置等は職員の指示に従ってください

・その他、事務局職員の指示に従ってください。

７　申込に関する問い合わせ先

「食品に関するリスクコミュニケーション」運営事務局（委託先）担当：篠原、清水

　E-mail：[forum@intergroup.co.jp](mailto:forum@intergroup.co.jp)

**■***NEW***食品中の放射性物質の検査結果について（１３７３報）　2023/12/26**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_36933.html>

**■***NEW***食品安全情報（微生物）No.26 2023（2023.12.20）2023/12/20**

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202326m.pdf>

**目次**

**【米国疾病予防管理センター（US CDC）】**

1. カンタロープメロンに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella*

Sundsvall および *S*. Oranienburg）感染アウトブレイク（2023 年 12 月 15 日、7 日付更新情報）

**【Morbidity and Mortality Weekly Report（CDC MMWR）】**

1. 米国の各州・地域の保健局 25 カ所から米国環境評価報告システム（NEARS）に報告された食品小売業者に関連する食品由来疾患アウトブレイク（2017～2019 年）

**【カナダ公衆衛生局（PHAC）】**

1. 公衆衛生通知：Malichita ブランドおよび Rudy ブランドのカンタロープメロンに関連して発生しているサルモネラ（*Salmonella* Soahanina、*S*. Sundsvall および *S*. Oranienburg）感染アウトブレイク（2023 年 12 月 15 日、7 日付更新情報）

**【欧州疾病予防管理センター（ECDC）／欧州食品安全機関（EFSA）】**

1. 欧州連合（EU）域内のヒト、動物および食品由来の人獣共通感染症細菌と指標細菌の抗菌剤耐性に関する年次要約報告書（2020／2021 年）

**【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】**

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

**【欧州食品安全機関（EFSA）】**

1. One Health 政策のため欧州食品安全機関（EFSA）が欧州連合（EU）の関連機関と協

　力

**【アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland）】**

1. アイルランドでノロウイルス感染患者数が増加傾向

**【ProMED-mail】**

1.コレラ、下痢、赤痢最新情報（29）（28）（27）（26）（25）

**■***NEW***食品安全情報（化学物質）No.25 2023（2023.12.6）　023/12/6**

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202325c.pdf>

**＜注目記事＞**

**【FDA】 FDA は食品中の部分水素添加油に対する最終行政措置を完了する**

米国食品医薬品局（FDA）は、食品への部分水素添加油（PHOs）の使用規定を取り消す直接最終規則の発効日を 2023 年 12 月 22 日と発表した。

**＊ポイント：** 米国ではメーカーの取組みが進んでいることから、特段の反対意見はなく発効日が決定したようです。PHOs については、香港でも「食品中の有害物質（改正）規則 2021」のもと食品への使用禁止の規定が 2023 年 12 月 1 日に発効しています。

**【FDA】 高濃度の鉛の調査：シナモンアップルソースパウチ(2023 年 11 月)**

米国 FDA は、2023 年 12 月 19 日の時点でリコール製品に関連する可能性のある有害事象報告を 69 件受け取っている。現時点でリコール対象製品の拡大はない。さらに、原因調査のため、エクアドルにある Austrofoods 社（リコール対象の WanaBana 製品の米国販売代理店）の施設の立入検査を開始するとともに、エクアドル当局が Austrofoods 社へシナモンを供給している Negasmart 社の調査を実施している。

**【CDC】 シナモンアップルソースパウチ製品に関連した鉛中毒の発生**

米国疾病予防管理センター（CDC）は、WanaBan 製品のリコールに関連した鉛暴露の症例について発表した。2023 年 12 月 15 日時点で、計 205 例が報告され、うち 67 例でリコール製品との関連が確定されている。ただし FDA と CDC はデータソースが異なるため、各機関が発表する有害事象/症例の報告数は一致しないことに注意が必要である。

**＊ポイント：** エクアドル当局の報告によると、生鮮品や未加工品ではなく、粉砕又は粉末のシナモン加工品が汚染されていたようです。汚染原因は特定されておらず、現在も調査中です。FDA の有害事象は主に医療従事者や消費者の自己申告による報告であり、CDC の症例は州保健局を通じた報告に基づく点が異なります。CDC の症例定義では、医学的な観察を必要とする血中鉛濃度の参考値 3.5 µg/dL を指標にしています。

**【FSANZ】 食品基準通知（Notification Circular 273-23）**

**意見募集：新規食品としての培養ウズラの使用を許可することについて**

Vow Group Pty Ltd から、Coturnix japonica（ニホンウズラ）由来の培養細胞を新規食品成分として使用することについて、認可を求める申請が提出された。今回は、細胞ベースの食品製造の最初の 3 段階（細胞株、製造方法、細胞採取）に焦点を当てたオーストラリア・ニュージーランド食品基準局（FSANZ）のリスク評価に対する意見を求めている。

**【ご挨拶】**

2023 年の最終号となります。今年は、「食品安全情報」の発行開始から 20年を迎える記念の年でした。これまでご紹介してきた海外における化学物質関連のトピックスを簡単にまとめましたので、何かのご参考になれば幸いです。来年も引き続き「食品安全情報」をよろしくお願いいたします。皆さま、よいお年をお迎えください。

＊2003～2022 年度の 20 年間に「食品安全情報」で紹介した化学物質のトピックス

　　国立医薬品食品衛生研究所報告, 141, 15-32 (2023).

<https://www.nihs.go.jp/library/eikenhoukoku/2023/015-032.pdf>

**■***NEW***食品安全情報（化学物質）No.26 2023（2023.12.20）　2023/12/20　別添**

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202326ca.pdf>

**3.****[食品安全委員会関係](#食品安全委員会関係)**　<https://www.fsc.go.jp/>

**■***NEW***食品安全委員会（第925回）の開催について　2024/1/　1/5現在発表がありません**

標記会合を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、本会合については、傍聴者を入れずに開催いたしますが、本会合の様子については、下記４のとおり、web上で動画配信することといたしました。

議事録につきましては、後日、食品安全委員会Webサイト

（<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>） に掲載いたします。大変御迷惑をお掛けいたしますが、ご理解のほど、何卒よろしくお願いいたします。

記

１．開催日時：令和6年1月日（火）　１４：００〜

２．開催場所：食品安全委員会 大会議室　（港区赤坂５−２−２０ 赤坂パークビル２２階)

３． 議事

４．動画視聴について

：本会合については、その様子を動画配信するとともに、会場での傍聴も受け付けます。動画の視聴又は会場での傍聴を希望される方は、1月日（月）12時までに、内閣府共通意見等登録システム(<https://form.cao.go.jp/shokuhin/opinion-1404.html>　にて申し込みいただきますようお願いいたします。

　動画の視聴をお申し込みいただいた方には、御登録いただいたメールアドレス宛てに視聴に必要なURLを、1月日（火）12時までに御連絡いたします。

　　なお、会場での傍聴席は限りがありますので、傍聴を希望される方が多数の場合には原則として先着順とさせていただき、傍聴可能な方には1月日（月）18時までに御登録いただいたメールアドレス宛てにご連絡いたしますので、受付時間（13：30〜13：50）までに会議室入口で受付をお済ませください。受付時間終了後は入場出来ませんので、ご了承ください。会場で傍聴できない方については、動画視聴に必要なＵＲＬをご送付させていただきます。

　　また、当日の配布資料につきましては、会議開催前までに食品安全委員会のウェブサイト（　<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>　）に掲載予定ですので、必要に応じて参照いただきながら、ご覧ください。

※動画視聴時の録画及び録音、画面撮影はご遠慮ください。

<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/annai/annai804.html>

<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/annai/> 　**←発表がない場合はこちらからご確認ください**

**会議の結果は下記から確認できます**

**★***Link***食品安全委員会　開催実績リンク　開催日時、配付資料、議事録等**

<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>

<https://www.fsc.go.jp/iken-bosyu/pc1_hisiryou_muramidase_030512.html>

**■***NEW***食品安全関係情報更新（令和5年11月17日から令和5年12月6日）2023/12/28**

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/search?year=&from=struct&from_year=2023&from_month=11&from_day=17&to=struct&to_year=2023&to_month=12&to_day=8&max=100>

**４．****[農水省関係](C:\\Users\\chichi2\\AppData\\Roaming\\Microsoft\\Word\\農水省関係)**<https://www.maff.go.jp/>

**★***Link***ウクライナ情勢に関する農林水産業・食品関連産業事業者向け相談窓口**

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/sodan.html>

**■***NEW***令和6年能登半島地震を受けた食品表示法に基づく食品表示基準の弾力的運用について　2024/1/3**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/kansa/240103.html>

　　農林水産省は、消費者庁及び厚生労働省と連名で、災害救助法の適用を受けた被災地において、食品表示基準を弾力的に運用する旨を本日、関係機関に通知しました。

なお、特にアレルギー表示及び消費期限については、被災者の方々の食事による健康被害を防止することが何より重要なため、これまでどおり、取締りの対象となります。

概要

食品表示法においては、食品表示の適正の確保のため、食品表示基準が定められているところです。

一方で、令和6年能登半島地震による被害により、被災地への食料の円滑な供給が重要な課題となっています。このことを踏まえ、本日、農林水産省、消費者庁及び厚生労働省は、災害救助法の適用を受けた被災地において、食品表示基準を弾力的に運用する等の旨を以下の添付資料のとおり、関係機関に通知しました。

＜添付資料＞

令和6年能登半島地震を受けた食品表示法に基づく食品表示基準の運用について

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/kansa/pdf/20240103hyoji.pdf>

**■***NEW***令和6年能登半島地震に関する情報　2024/1/3**

<https://www.maff.go.jp/j/saigai/r6notojishin.html>

**農林水産関係の通知**

**消費・安全局**

**・令和6年能登半島地震を受けた食品表示法に基づく食品表示基準の運用について**

<https://www.maff.go.jp/j/saigai/attach/pdf/r6notojishin-11.pdf>

**経営局**

**・令和6年能登半島地震に伴う災害に対する金融上の措置について(令和6年1月2日)**

<https://www.maff.go.jp/j/saigai/attach/pdf/r6notojishin-3.pdf>

**・令和6年能登半島地震による被害農林漁業者等に対する資金の円滑な融通及び既往債務の償還猶予等について（依頼）(令和6年1月3日)**

<https://www.maff.go.jp/j/saigai/attach/pdf/r6notojishin-4.pdf>

**水産庁**

**・令和6年能登半島地震による災害に対する金融上の措置について(令和6年1月3日)**

<https://www.maff.go.jp/j/saigai/attach/pdf/r6notojishin-5.pdf>

**・令和6年能登半島地震による漁業被害等に係る迅速かつ適切な損害評価等の実施及び共済金等の早期支払について（依頼）(令和6年1月3日)**

<https://www.maff.go.jp/j/saigai/attach/pdf/r6notojishin-6.pdf>

**・令和6年能登半島地震による被害漁業者等に対する資金の円滑な融通及び既往債務の償還猶予等について（依頼）(令和6年1月3日)**

<https://www.maff.go.jp/j/saigai/attach/pdf/r6notojishin-7.pdf>

**令和6年能登半島地震に関する相談窓口について**

**農林水産省は、令和6年能登半島地震被害に係る農林水産業の相談窓口を設置しました。**

**お困りの方は相談窓口にご相談ください。**

**農業全般：北陸農政局総合相談窓口**

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/guide/soudan/nouseisoudan.html>

**林業関係：林野庁相談窓口**

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/saigai/joho/06saigainoto.html>

**水産業関係：準備中**

**お問合せ先**

**大臣官房地方課災害総合対策室　担当者：川島、関川**

**代表：03-3502-8111（内線5133）　ダイヤルイン：03-6744-2142**

**■***NEW***令和6年能登半島地震に係る相談窓口の設置について　2024/1/3　林野庁**

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/saigai/joho/06saigainoto.html>

**林業・木材産業・特用林産事業者等の皆様へ**

**地震災害の影響を受けた事業者等を支援するための相談窓口を設置いたします。**

**「令和６年能登半島地震に係る相談窓口」**

**場所林野庁 林政部 林政課 総務班**

**連絡先03－6744－1777**

**※対応時間（平日9：00～17：00）**

**お問合せ先**

**林政部林政課　担当者：総務班　ダイヤルイン：03-6744-1777**

**■***NEW***岐阜県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について　2024/1/5**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/240105.html>

　　本日（1月5日（金曜日））、岐阜県山県市の家きん農場において、家畜伝染病である高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認（今シーズン国内6例目）されました。

これを受け、農林水産省は、「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」を持ち回りで開催し、今後の対応方針について決定しました。

1.農場の概要

所在地：岐阜県山県市

飼養状況：約5万羽（肉用鶏）

2.経緯

（1）昨日（1月4日（木曜日））、岐阜県は、同県山県市の農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受けて、農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該家きんについて鳥インフルエンザの簡易検査を実施したところ陽性であることが判明しました。

（3）本日（1月5日（金曜日））、当該家きんについて遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***群馬県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について　2024/1/1**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/240101.html>

　　本日（1月1日（月曜日））、群馬県高山村の家きん農場において、家畜伝染病である高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認（今シーズン国内5例目）されました。

これを受け、農林水産省は、「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」を持ち回りで開催し、今後の対応方針について決定しました。

1.農場の概要

所在地：群馬県高山村

飼養状況：約36万羽（採卵鶏）

2.経緯

（1）昨日（12月31日（日曜日））、群馬県は、同県高山村の農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受けて、農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該家きんについて鳥インフルエンザの簡易検査を実施したところ陽性であることが判明しました。

（3）本日（1月1日（月曜日））、当該家きんについて遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***米国、ベトナム及びマカオ向け家きん由来製品の輸出再開について（佐賀県）　2023/12/28**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/231228.html>

　　本日より、佐賀県からの米国、ベトナム及びマカオ向けの家きん由来製品の輸出が再開されましたのでお知らせします。

概要

令和5年11月25日に高病原性鳥インフルエンザの今シーズン国内一例目が佐賀県で確認されて以降、輸出相手国・地域との間で地域主義の適用について協議を行い、主な輸出先である香港、シンガポール、米国、ベトナム、マカオ当局からは、非発生県からの家きん由来製品の輸出継続が認められています。

これまで、発生県からの輸出再開について協議を行ってきたところ、今般、米国、ベトナム及びマカオ当局との間で、高病原性鳥インフルエンザに関する清浄性が認められた佐賀県からの家きん由来製品の輸出再開について合意しました。

これにより、本日から、動物検疫所において米国、ベトナム及びマカオ向けの輸出に必要な輸出検疫証明書の交付を再開しました。

なお、今回の協議により、米国、ベトナム及びマカオ向け輸出については、防疫措置完了から28日が経過した日に遡って、その日以降に生産・処理された家きん由来製品の輸出が認められたため、「12月27日以降に生産・処理された家きん由来製品」について、輸出検疫証明書の交付が可能です。

引き続き、他の輸出先国・地域との協議を行ってまいります。

＜2023年1-10月の輸出額＞

鶏肉の総輸出額：21億円

（うち、ベトナム：2500万円、マカオ：870万円、米国：0万円）

鶏卵の総輸出額：57億円

（うち、米国：2000万円、ベトナム：1600万円、マカオ：0万円）

出典：財務省「貿易統計」

＜これまでの経過＞

令和5年11月25日：佐賀県において高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜を確認（佐賀県からの家きん由来製品の輸出が一時停止）

令和5年12月27日：佐賀県が、防疫措置完了から続発なく28日経過したため再度清浄エリアとなる

＜その他の発生県が再度清浄エリアとなる日＞

令和5年12月29日：茨城県

令和5年12月31日：埼玉県

令和6年1月2日：鹿児島県

仮に上記日付を迎える前に新規発生が確認された場合には、当該発生における防疫措置が完了した日から28日経過した日となります。

参考

各国の家きん由来製品の輸出停止状況については、以下のページよりご確認いただけます。

URL： <https://www.maff.go.jp/aqs/topix/exkakin_teishi.html>

**■***NEW***令和4年の農用地区域内の農地面積について　2023/10/26**

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/noukei/231226.html>

**■***NEW***「食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT FES.大阪」を開催！　2023/12/26**

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/231226.html>

　～「大阪から、ニッポンフードシフト。」～

農林水産省は、食と農のつながりの深化に着目した国民運動「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」を展開しています。

1月13日(土曜日)・14日(日曜日)の2日間、グランフロント大阪(北館1階ナレッジプラザ、無印良品イベントスペース他)において、農林漁業者・食品事業者及び消費者が、日本の食や農をめぐる事情や課題、目指す未来について、ともに考えるきっかけとするイベント「食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT FES.大阪」を開催します。

　1.開催趣旨

我が国では食の外部化・簡便化が進むなかで、食と農との距離が遠のき、農業や農村を身近に感じることが少なくなってきています。

農林水産省は、日本の食と農を取り巻く課題を身近なものとして考えてもらうために、消費者と生産者や事業者とが出会い、交わることで、食への新たな気づきや発見を促し、意識や行動を変えていくためのきっかけづくりを目指しています。

この度、グランフロント大阪(北館1階ナレッジプラザ、無印良品イベントスペース他)において、日本の食や農が抱える課題や目指す未来について、ともに考えるきっかけとするイベント「NIPPON FOOD SHIFT FES.大阪」を開催します。

2.開催日及び場所

開催日程：令和6年1月13日(土曜日) 11時から18時まで

　　 14日(日曜日) 11時から17時まで

開催場所：グランフロント大阪 北館（大阪府大阪市北区大深町3-1）

　　1階 ナレッジプラザ／2-4階 無印良品 店舗エリア

3.主なイベント内容

Z世代等による「食」についてのトークセッション、農家エッセイ・コミックのパネル展示日本全国の生産者たちがつくる農産物を扱ったマルシェやキッチンカーの出店等、多彩な展示や催しを行います。

【ステージプログラム】

・餃子の王様と呼ばれるパラダイス山元氏と大阪屈指のスパイスカレー店の堕天使かっきー氏が、餃子とカレーが融合した100％国産のオリジナルメニューの実演・試食を行い、熱く語り合うオープニングセッション

・「食」が「交わる」と書いて「餃子」。餃子を囲んで、日本の食について考える餃子会議の一環として、パラダイス山元氏が地域の特産を使った餃子の食べ方について紹介するトークショー

　 (参考)

　　ニッポンフードシフト「餃子から日本を考える」ウェブサイト

　　餃子から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/gyoza/>

・デザインを学ぶZ 世代の学生が「食料安全保障や適正な価格形成」について学び、「食によりそう、理想の未来をよそう」をテーマに実施するプレゼンテーションや、デザインを学ぶ学生と農業を学ぶ学生が、それぞれの視点から食の課題と解決アイデアを考えるコラボトークセッション

・生産者や事業者の皆さんを交えた食と農の新しい魅力について掘り下げるトークセッション

　　ほか、推進パートナー企業の活動紹介等、様々なトークセッションを実施します。

【展示とマルシェ】

マンガ家になる前に北海道で実家の酪農・畑作業に従事していた荒川弘先生のパワフルエピソード満載の農家エッセイコミック『百姓貴族』（新書館・隔月刊ウィングス連載中）と東京農業大学、農林水産省がコラボしたパネル展示を行います。

　【ニッポンフードシフト、農林水産省 近畿農政局の活動紹介】

ニッポンフードシフトでは、食や農の現状を考えるためのきっかけづくりを目指して、官民協働によりコンテンツの提供やイベント等を展開しています。本ブースでは、身近な食を通して日本の食料事情を分かりやすく解説した動画「餃子から日本を考える。」「カレーから日本を考える。」等を上映します。また、農林水産省 近畿農政局での取組について紹介します。

詳細は別添資料、または12月26日(火曜日)13時に公開のニッポンフードシフト公式サイト「NIPPON FOOD SHIFT FES.大阪」をご覧ください。

NIPPON FOOD SHIFT FES.大阪

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/fes/osaka20240113/>

QR コード

自動的に生成された説明

**4.添付資料**

**報道発表資料**

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/attach/pdf/231226-7.pdf>

**NIPPON FOOD SHIFT FES.大阪 詳細資料**

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/attach/pdf/231226-8.pdf>

**■***NEW***チリからの家きん肉等の一時輸入停止措置の解除について　2023/12/26**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/231226.html>

　　農林水産省は、今般、チリにおける鳥インフルエンザの清浄性を確認したことから、本日、チリからの家きん肉等の一時輸入停止措置を解除しました。

1.経緯

チリの家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたことから、令和5年3月以降、同国からの家きん肉等について輸入を一時停止していました。

（参考）生きた家きんについては、二国間の輸入条件が設定されておらず、従前より輸入できません。

2.対応

今般、チリ家畜衛生当局から我が国に提供された鳥インフルエンザの防疫措置等の情報により、同国の家きんにおける同病の清浄性を確認しました。このため、本日付で当該一時輸入停止措置（※）を解除しました。

　　これまでの生きた家きん、家きん肉等の輸入停止措置の状況等については、以下のページより確認いただけます。

動物検疫所：<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/im/hpai.html>

**■***NEW***鹿児島県出水市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内4例目）に係る移動制限の解除について　2023/12/26**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/231226_3.html>

　　鹿児島県は、同県出水市で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内4例目）に関し、発生施設から半径3km以内で設定している移動制限区域について、令和5年12月26日（火曜日）午前0時（12月25日（月曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

1.経緯及び今後の予定

（1）鹿児島県は、令和5年12月3日に同県出水市の家きん農場において高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内4例目）が発生したことを受け、家畜伝染病予防法に基づき、移動制限区域（発生施設の半径3km以内の区域）及び搬出制限区域（発生施設の半径3kmから10kmまでの区域）を設定しました。

（2）鹿児島県は、令和5年12月20日に発生施設の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（3）今般、鹿児島県は、全ての発生農場の防疫措置が完了した令和5年12月4日の翌日から起算して21日が経過する令和5年12月26日（火曜日）午前0時（12月25日（月曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

**3.参考**

**鹿児島県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/231203.html>

**鹿児島県で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内4例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/231205.html>

**■2023年農業技術10大ニュースの選定について　2023/12/25**

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/231225.html>

　「2023年農業技術10大ニュース」を選定しました。

1.「農業技術10大ニュース」の選定について

この1年間に新聞記事となった民間企業、大学、公立試験研究機関及び国立研究開発法人の農林水産研究成果のうち、内容に優れるとともに社会的関心が高いと考えられる成果10課題を農業技術クラブ（農業関係専門紙・誌など30社加盟）の加盟会員による投票を得て選定しました

2.選定結果について

選定した「2023年農業技術10大ニュース」は、次のとおりです。

**TOPIC1**

果樹の開花に必要な低温積算時間を一目で把握　－スマホで果樹の促成栽培管理を支援－

農研機構は、「果樹の開花に必要な低温積算時間」を把握できるシステムを開発。早期に収穫することで有利に販売できる促成栽培において、スマートフォン等で加温開始時期を適切に判断できることから、開花率の向上や開花時期の斉一化のほか、無駄な加温が無くなることによる省エネ効果により生産性の向上が期待されます。

＜添付資料＞

2023年農業技術10大ニュース(TOPIC1)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/231225-1.pdf>

**TOPIC2**

雨が降っても安心！　－畝立て同時乾田直播機を開発－

農研機構とI-OTA合同会社は、降雨後の圃場でも水稲の乾田直播作業ができる「畝立て乾田直播機」を共同で開発。土が付着しにくい直播作業部を備え、表面が硬い畝を立ててその上面に種子を播く仕組み。短時間の播種作業が可能で、湿害対策にもつながり、安定的な二毛作の普及拡大への寄与が期待されます。

＜添付資料＞

2023年農業技術10大ニュース(TOPIC2)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/231225-2.pdf>

**TOPIC3**

サツマイモ基腐病に強い青果用かんしょ「べにひなた」

―南九州における青果用かんしょの安定生産に貢献―

農研機構は、サツマイモ基腐病に強い抵抗性を持つ青果用かんしょの新品種「べにひなた」を育成。サツマイモ基腐病のまん延している畑での試験栽培では従来品種の「べにはるか」は1割以下しか収穫できなかったのに対し、「べにひなた」は8割以上収穫できました。宮崎県と鹿児島県で普及が見込まれ、サツマイモ基腐病の被害軽減と青果用かんしょの安定生産への貢献が期待されます。

＜添付資料＞

2023年農業技術10大ニュース(TOPIC3)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/231225-3.pdf>

**TOPIC4**

レーザー光による害虫駆除技術を開発

―殺虫剤を使わずにレーザー光によって害虫を撃ち落とす新技術―

大阪大学と農研機構は、薬剤抵抗性を有する蛾の一種「ハスモンヨトウ」について、青色半導体レーザーを照射して撃墜することに成功。ハスモンヨトウの各部位にレーザーのパルス光を照射し、胸部や顔部が急所であることを発見するとともに、飛翔予測、追尾、狙撃するための技術を開発しました。化学農薬を使用することなく駆除できる技術として期待されます。

＜添付資料＞

2023年農業技術10大ニュース(TOPIC4)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/231225-4.pdf>

**TOPIC5**

コメを活用した肥料被覆材を開発

－プラスチック殻の土壌残存・海洋汚染「ゼロ」を目指します－

三洋化成工業株式会社とバイオマスレジンホールディングスは、米を活用した生分解性樹脂を使った農業用肥料被覆材を開発。農地での検証を経て2027年に実用化する予定です。肥料成分をプラスチックでコーティングした被覆肥料は、肥料成分が溶け出した後のプラスチック殻の土壌残存や海洋汚染が課題となっていますが、本資材で持続可能な農業の実現に貢献します。

＜添付資料＞

2023年農業技術10大ニュース(TOPIC5)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/231225-10.pdf>

**TOPIC6**

害虫の発生状況を遠隔からモニタリング

－IoTを利用し、害虫の発生調査を自動化する装置を開発－

農研機構は、IoTとフェロモントラップを組み合わせ、省力的に日単位の害虫発生データを自動収集するモニタリング装置を開発。従来より迅速に害虫発生情報を農業者等に提供し、適時適切な農薬散布ができることで農業生産の安定・向上に貢献すると期待されます。

＜添付資料＞

2023年農業技術10大ニュース(TOPIC6)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/231225-9.pdf>

**TOPIC7**

酵素パワーで生分解性プラスチック製品の分解を加速

－ごみの削減に役立つとともにマルチフィルム処理労力を低減－

農研機構は、イネに常在する酵母由来の酵素で生分解性マルチの分解を速められることを確認。酵素を大量に生産する方法も開発済みで、野菜などの畑でマルチフィルムに散布する酵素（処理剤）として実用化につなげる方針です。

＜添付資料＞

2023年農業技術10大ニュース(TOPIC7)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/231225-5.pdf>

**TOPIC8**

灰色かび病菌の感染の仕組み解明　－「RNA農薬」の開発を目指す－

名古屋大学は、農作物に大きな被害をもたらす灰色かび病菌が多種多様な農作物に感染できる仕組みを解明。農作物が作る抗菌物質を識別したうえで、それを不活化する酵素を合成する遺伝子を活性化することがわかりました。環境に負荷をかけず、病原菌から感染力だけを奪う「RNA農薬」の開発に役立つと期待されます。

＜添付資料＞

2023年農業技術10大ニュース(TOPIC8)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/231225-6.pdf>

**TOPIC9**

ホクホク食感のかんしょ新品種「ひめあずま」

―青果用と菓子加工用の両方に適する「ベニアズマ」の後継―

農研機構は、かんしょ新品種「ひめあずま」を育成。”ほくほく系”の主力品種「ベニアズマ」に似た風味・触感で、青果、菓子加工用の両方に向きます。「ベニアズマ」より芋の形がよいものを作りやすいため、「ベニアズマ」の後継品種として、関東を中心に全国に普及（2024年をめどに種苗会社を通じて生産者に供給）する予定です。

＜添付資料＞

2023年農業技術10大ニュース(TOPIC9)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/231225-7.pdf>

**TOPIC10**

茎枯病抵抗性のアスパラガス新品種「あすたまJ」を育成

－茎枯病発生ほ場でも高収量が見込める革新的な抵抗性品種－

農研機構と香川県、東北大学、九州大学は、難防除病害である茎枯病に抵抗性を持つ国内初のアスパラガス品種「あすたまJ」を育成。露地栽培で従来品種が枯れてしまうほど茎枯病がまん延している畑でも、殺菌剤無散布で順調に生育し安定した収量を得られます。今後、栽培技術の開発や親株の増殖などを通して2028年をめどに種苗の提供を始める予定です。

＜添付資料＞

2023年農業技術10大ニュース(TOPIC10)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/231225-8.pdf>

これまでの成果は以下のURLで紹介しています。

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/10topics.htm>

お問合せ先

農林水産技術会議事務局研究企画課　担当者：中島、井戸原

代表：03-3502-8111（内線5847）ダイヤルイン：03-3502-7407

**■埼玉県毛呂山町で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内3例目）に係る移動制限の解除について　2023/12/25**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/231225.html>

　埼玉県は、同県毛呂山町で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内3例目）に関し、発生施設から半径3km以内で設定している移動制限区域について、令和5年12月24日（日曜日）午前0時（12月23日（土曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

1.経緯及び今後の予定

（1）埼玉県は、令和5年11月30日に同県毛呂山町の家きん農場において高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内3例目）が発生したことを受け、家畜伝染病予防法に基づき、移動制限区域（発生施設の半径3km以内の区域）及び搬出制限区域（発生施設の半径3kmから10kmまでの区域）を設定しました。

（2）埼玉県は、令和5年12月18日に発生施設の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（3）今般、埼玉県は、全ての発生農場の防疫措置が完了した令和5年12月2日の翌日から起算して21日が経過する令和5年12月24日（日曜日）午前0時（12月23日（土曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

**3.参考**

**埼玉県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/231130.html>

**埼玉県で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内3例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/231201.html>

**■茨城県笠間市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内2例目）に係る移動制限の解除について　2023/12/22**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/231222.html>

　　茨城県は、同県笠間市で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内2例目）に関し、発生施設から半径3km以内で設定している移動制限区域について、令和5年12月22日（金曜日）午前0時（12月21日（木曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

1.経緯及び今後の予定

（1）茨城県は、令和5年11月27日に同県笠間市の家きん農場において高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内2例目）が発生したことを受け、家畜伝染病予防法に基づき、移動制限区域（発生施設の半径3km以内の区域）及び搬出制限区域（発生施設の半径3kmから10kmまでの区域）を設定しました。

（2）茨城県は、令和5年12月16日に発生施設の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（3）今般、茨城県は、全ての発生農場の防疫措置が完了した令和5年11月30日の翌日から起算して21日が経過する令和5年12月22日（金曜日）午前0時（12月21日（木曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

2.その他

（1）我が国の現状において、鶏肉や鶏卵等を食べることにより、ヒトが鳥インフルエンザウイルスに感染する可能性はないと考えています。

<https://www.fsc.go.jp/sonota/tori/tori_infl_ah7n9.html>

（２）現場での取材は、本病の蔓延を引き起こす恐れがあること、プライバシーを侵害しかねないことから、厳に慎むよう御協力をお願いいたします。特に、ヘリコプターやドローンを使用しての取材は防疫作業の妨げとなるため、厳に慎むようお願いいたします。

（3）今後とも、迅速で正確な情報提供に努めますので、生産者等の関係者や消費者は根拠のない噂などにより混乱することがないよう、御協力をお願いいたします。

　3.参考

茨城県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/231127.html>

茨城県で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内2例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/231128.html>

**５.****[消費者庁関連](#消費者庁関連)**<https://www.caa.go.jp/>

**「消費者庁」になりすましたTwitter、Facebookアカウントにご注意ください。**

**■***NEW***令和6年能登半島地震関連情報　消費者庁からの情報　2024/1/3**

[https://www.caa.go.jp/disaster/#notice\_caa202401](https://www.caa.go.jp/disaster/%23notice_caa202401)

　災害に便乗した悪質商法に注意! (2024年1月3日再掲)

<https://www.caa.go.jp/notice/assets/consumer_transaction_cms203_200805_02.pdf>

震災に関する義援金(ぎえんきん)詐欺に御注意ください

<https://www.caa.go.jp/disaster/caution_001>

**過去の震災時には、福祉団体や公的機関などを名乗り、義援金をだまし取ろうとする義援金詐欺と疑われる事例の情報が寄せられています。**

**募っている団体等の活動状況や使途をよく確認し、納得した上で義援金を寄付しましょう。**

**1.過去に寄せられた事例・手口**

**・災害の際の義援金をお願いしたいと訪問された。**

**・「○○市役所からです。義援金を募っています。あとから市の職員が訪問します。」と電話があった。**

**・「災害救済のために名産品を代引配達で送るので協力してほしい」と電話があった。**

**・災害復興支援団体を名乗り「震災で苦しんでいる人に義援金をお願いします」とのメールが届いた。**

**・災害の募金をしたら投資のツールを提供するという募金に応募したが全く儲からない。**

**2.消費者へのアドバイス**

**・公的機関が、各家庭に電話等で義援金を求めることは考えられません。当該公的機関に確認しましょう。**

**・募っている団体等の活動状況や使途をよく確認し、納得した上で義援金を寄付しましょう。**

**・口座に振り込む場合は、振込先の名義をよく確認しましょう。**

**・不審に思ったとき、被害に遭ったときは、各地の消費生活センター等(消費者ホットライン「188」番)に御相談ください。**

**■***NEW***食品ロス削減目標達成に向けた施策パッケージ(2023年12月22日)**

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/conference/#c03>

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/conference/assets/consumer_education_cms201_231222_010.pdf>

**■空気清浄効果等を標ぼうする商品の製造販売業者2社に対する景品表示法に基づく措置命令について　2023年12月22日**

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/035721/>

　　消費者庁は、令和5年12月21日及び同月22日、空気清浄効果等を標ぼうする商品の製造販売業者2社に対し、2社が供給する空気清浄効果等を標ぼうする商品に係る表示について、それぞれ、景品表示法に違反する行為(同法第5条第1号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第7条第1項の規定に基づき、措置命令を行いました。

公表資料

空気清浄効果等を標ぼうする商品の製造販売業者2社に対する景品表示法に基づく措置命令について　<https://www.caa.go.jp/notice/assets/representation_231222_01.pdf>

**消費者庁リコール情報サイト**<https://www.recall.caa.go.jp/>

**（回収中か否かに関わらず、だいたい一回の掲載で消去します）****★は岩手カビ毒の事例**

**★オギノ「生食用北海酢だこ・着色ブロック」 - 返金／回収　消費期限の誤表示（誤：賞味期限2024年1月24日、正：消費期限2024年1月1日）　2024/1/5**

**★みづほ野「ホワイトマドレーヌ、クラシックマドレーヌ」 - 返金／回収　食品表示（アレルゲン・名称・原材料・食品添加物・内容量・賞味期限・保存方法・製造者表示）の欠落　2023/12/28**

**★内沼きのこ園「粉末しいたけ」 - 返金／回収　放射性セシウムが基準値（一般食品100Bq/kg）を超えて検出されたため　2023/12/28**

**★かとう製菓「ポテトスナック　コンソメ風味（久助・割れ）」 - 返金／回収　賞味期限、製造者情報の誤表示（誤：24.3.19、正：23.11.19）　2023/12/28**

**★いたくらホールディングス「本家いたくら飛騨高山らーめん」 - 交換／回収　密封状態が不完全でカビが発生したため　2023/12/28**

**★朝日商事「ココアダスト　トリュフ　オレンジ風味」 - 返金／回収　アレルゲン「乳成分、大豆、オレンジ」の表示欠落、ほか　2023/12/28**

**★佐々木紅美「梅エキス」 - 回収　清涼飲料水の製造基準違反のおそれ　2023/12/28**

**★福井商事「天津甘栗」 - 返金／回収　原産国表示の欠落　2023/12/28**

**★全国農業協同組合連合会岩手県本部「JAいわて平泉管内産りんご　サンふじ」　 - 回収適用外農薬成分メプロニルが検出されたため（0.05ppm）　2023/12/28**

**★ワタリ「ブルーベリー」 - 返金／回収　基準値を超える残留農薬（テブコナゾール）が検出されたため（検出値0.05ppm、基準値0.01ppm）　2023/12/28**

**★山一食品「ロールこまい」 - 返金／回収　カビによる汚染　2023/12/27**

**★林兼産業「鎌倉ハムポークウインナー」 - 返金／回収　アレルゲン「卵」の表示欠落　2023/12/27**

**★ひだの「手づくり信州りんごパイケーキ」 - 交換／回収　ピンホールによるカビ発生のおそれがあるため　2023/12/27**

**★楢﨑商店「釜あげしらす」 - 返金／回収　有毒魚類混入の疑い　2023/12/27**

**★松屋総本店「京急HAPPYレモン飴」 - 返金／回収　パッケージ（外装）と個包装（内装）の間に異物（虫）混入のおそれ　2023/12/27**

**★生友商事「小麻花（黒糖味）」 - 回収命令　指定外添加物が検出されたため　2023/12/27**

**★PAPABUBBLE JAPAN「グミキャンディ（お年賀バブレッツ）」 - 返金／回収　アレルゲン「乳成分、大豆」の表示欠落　2023/12/26**

**★八水蒲鉾「孔雀　赤」 - 回収　膨張しガスが溜まり腐敗部分が確認されたため　2023/12/26**

**★ジェイアール西日本デイリーサービスネット（セブンイレブンハートインJR神戸駅中央口店）「焙煎ごまドレッシング、ほか」 - 返金／回収　10℃以下で保管する商品を冷蔵庫の故障により18℃まで上昇した状態で保管していたことが判明　2023/12/26**

**★ジェイアール西日本デイリーサービスネット（セブンイレブンハートインJR神戸駅中央口店）「味付き半熟ゆでたまご、ほか」 - 返金／回収　10℃以下で保管する商品を冷蔵庫の故障により18℃まで上昇した状態で保管していたことが判明　2023/12/26**

**★マルエツ「焼き子持ちからふとししゃも」 - 返金／回収　賞味期限の誤表示（誤：23.12.28、正：23.12.27）　2023/12/26**

**★ジャフマック「醗酵カシス、ほか18品」 - 返金／回収　清涼飲料水の規定（アルコール1%未満）を超えるアルコールが残存している可能性が判明　2023/12/26**

**★札幌開発「串鳥 鶏釜飯の素（常温商品）、串鳥 鶏釜飯の素・鶏肉入り（冷凍商品）」 - 交換／回収　外装袋記載の賞味期限に満たない期限の「だし小袋」が混入した可能性のあることが判明　2023/12/26**

**★リンワン「キャラメルガレットブルトンヌ」 - 返金／回収　アレルゲン「卵もしくは卵黄（卵を含む）」の表示欠落、ほか　2023/12/26**

**★神戸物産「ふんわりミニロールケーキ ブルーベリー風味」 - 回収命令　一部商品において基準値を超える添加物（プロピレングリコール）の検出が確認されたため　2023/12/26**

**★イナゾーファーム「有機トマトジュースクリア300g」 - 交換／回収　ロットの一部に殺菌不良がありカビ発生の恐れがあるため　2023/12/26**

**★いのうえ（ふくのいも）「芋けんぴ　塩」 - 返金／回収　賞味期限の誤表示（誤：令和7年1月22日、正：令和6年1月22日）　2023/12/25**

**★カネカシーフーズ「朝飯めかぶ、朝飯おくらめかぶ」 - 返金／回収　賞味期限の表示欠落（本来の賞味期限：23.12.23）　2023/12/25**

**★ハートアートコレクション「ジンジャーブレッド（チョコレート）」（阪急百貨店うめだ本店催事会場で販売） - 返金／回収　幼虫が混入　2023/12/25**

**★井ノ阪（業務スーパー河内長野店）「味付け数の子」 - 回収　冷凍販売商品を冷蔵販売と間違えて販売　2023/12/25**

**★花巻農業協同組合「花巻産南部小麦そうめん」 - 返金／回収　DON基準値を超過した小麦が使用された可能性があるため　2023/12/15**

**★東日本産業「南部小麦粉（岩手県産）」 - 返金／回収　デオキシニバレノール（DON）赤カビ基準値超過のため　2023/12/13**

**★羽沢製菓「南部煎餅：胡麻煎餅、ほか」 - 交換　主原料の小麦粉が、カビ毒の基準値を超えていたため　2023/12/7**

**★社会福祉法人くるみ福祉会「レモンクッキー」 - 返金／回収　カビ毒であるデオキシニバレノール（DON）の基準値超過が報告されている小麦を使用した小麦粉を使用しているため　2023/12/7**

**★北舘菓子舗「はなまがりクッキー、北の舘みそまんじゅう、JOMONクラッカー、ほか6商品」 - 返金／回収　DON（デオキシニバレノール）濃度の基準値超過　2023/12/5**

**★岩手屋「巖手とりから」 - 返金／回収　DON（デオキシニバレノール）濃度の基準値超過　2023/12/4**

**★オーサワジャパン「オーサワの石臼挽き完全粉、オーサワの南部地粉、こな屋さんのてんぷら粉」 - 返金／回収　カビ毒（デオキシニバレノール）濃度の基準値超過　2023/12/4**

**★志賀煎餅「南部せんべい、南部せんべいチョコクランチ、かたい愛で結ばれて、南部スナック」 - 返金／回収　赤カビ（デオキシニバレノール）濃度の基準値超過　2023/12/4**

**★天然酵母パン　メイアンドさつき「天然酵母パン、スコーン、天然酵母の炭火石窯ピザ」 - 交換／返金　DON（デオキシニバレノール）濃度の基準値超過のおそれ　2023/12/1**

**★DOUNEL「かりんとう」 - 返金／回収　DON（デオキシニバレノール）濃度の基準値超過のおそれ　2023/12/1**

**★夢21福祉会「黒糖きなこクッキー、ほか4商品」 - 交換／回収　DON（デオキシニバレノール）濃度の基準値超過のおそれ　2023/12/1**

**★戸田久「むぎかっけ」 - 返金／回収　岩手県産小麦の一部に赤カビの一種のDON（デオキシニバレノール）が基準値を超過して検出されたため　2023/11/30**

**★府金製粉「南部地粉、ほか6商品」 - 返金／回収　基準値を超える濃度のカビ毒（デオキシニバレノール）が含まれることが判明　2023/11/30**

**★古舘製麺所「韃靼そば、ほか20商品」 - 返金／回収　原料の小麦に基準以上の「DON（デオキシニバレノール）」が検出されたとの報告があったため　2023/11/30**

**★いわて生活協同組合「雑穀ブレッド、すいとん粉、県産小麦粉、うどん（乾麺）」 - 返金／回収　DON（デオキシニバレノール）濃度の基準値超過　2023/11/30**

**★オリオンベーカリー「アイコープ岩手県産小麦の雑穀ブレッド」 - 返金／回収　カビ毒による汚染の恐れ　2023/11/30**

**★豊上東山観光「南部煎餅チョコクランチ、かたい愛で結ばれて」 - 返金／回収　原料の南部煎餅に使用された小麦粉で基準値以上の赤カビが検出されたことが判明　2023/11/30**

**★老舗白沢せんべい店「南部せんべい」 - 返金／回収　カビ毒の基準値を超過　2023/11/29**

**★白石食品工業「東北産小麦のカンパーニュ、東北産小麦のくるみカンパーニュ」 - 返金／回収　原料小麦の一部においてデオキシニバレノールが濃度の基準を超過している可能性があるため　2023/11/29**

**６.** **[食中毒・感染症](#食中毒・感染症)**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8068a715873c6ec58e1b8a24b767bfef42745261>

**■：行政発表が見つからなかったもの**

**★細菌性食中毒★**

**~~■~~岐阜市の沖縄料理店で食中毒　20代の男女3人が下痢など訴え**

**2024年1月3日 21時00分 (1月3日 21時14分更新)　中日新聞　岐阜県岐阜市**

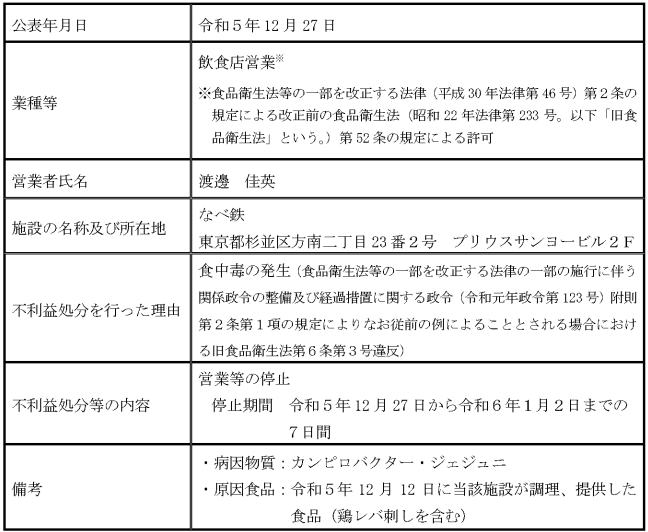
**カンピロバクター**

<https://www.chunichi.co.jp/article/831899>

**■不利益処分等のお知らせ　2023/12/27　杉並区**

**カンピロバクター**

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/022/061/r51227-1kouhyou.pdf>

****

**★ウイルスによる食中毒★**

**■営業施設に対する行政処分　2023/12/30　台東区**

**ノロウイルス**

<https://www.city.taito.lg.jp/kenkohukusi/kenkokikikanrieisei/food/syokuhineisei/ihansha.html>

　公表年月日　令和5年12月30日

施設の名称　肉と日本酒

施設所在地　東京都台東区

業種等　飲食店営業

（食品衛生法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備及び経過措置に関する政令（令和元年政令第123号）附則第2条の規定による従前の営業）

不利益処分等を行った理由 食中毒

（食品衛生法等の一部を改正する法律（平成30年法律第46号）第2条の規定による改正前の食品衛生法（昭和22年法律第233号。）第6条第3号違反により、第55条を適用）

不利益処分等の内容　令和5年12月30日から7日間の営業停止命令

原因食品　12月17日（日曜日）に「肉と日本酒」で提供された食事

病因物質　ノロウイルスGⅠ

患者数 1グループ7名

**■****大村の飲食店で５４人が食中毒　２日間営業停止**

**12/30(土) 10:11配信　長崎新聞　長崎県大村市**

**ノロウイルス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/87a53f79465a50185286d172310ed3e123bdd491>

**長崎県大村市の飲食店2店舗で食中毒発生　54人に下痢・嘔吐等の症状　有症者の便からノロウイルス検出　12/29(金) 14:24配信　NBC長崎放送****長崎県大村市**

**ノロウイルス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a6ca0cf742b03daceaeddefde0c022e393beba6e>

**■食中毒の発生について　2023/12/28　広島県広島市　食中毒の発生について**

**ノロウイルス**

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/houdou/houdou/365707.html>

　事件の概要

　　　令和５年１２月２６日(火曜日)１６時３０分頃、市民から「１２月２２日(金曜日)に職場の忘年会で市内の飲食店を利用し、複数名が体調不良である」との連絡があり、調査を開始した。

　調査の結果、患者らは１２月２２日(金曜日)夜に中区の飲食店「ＳＵＳＨＩ＆ＷＩＮＥＤＩＮＩＮＧ ＴＥＮＴＯ」を１グループ３０名で利用し、うち１７名が１２月２３日(土曜日)８時から１２月２４日(日曜日)１６時にかけて、下痢、嘔気、発熱、嘔吐等を発症していた。

　患者の共通食は、当該飲食店での食事以外になく、患者１０名の便からノロウイルスが検出されたこと、医療機関から食中毒患者の届出があったことから、広島市保健所は、当該飲食店で提供された食事を原因とする集団食中毒と判断し、１２月２８日(木曜日)、当該飲食店の営業者に対して、営業の禁止を命令した。

2　患者の状況

1. 患者数　１７名：入院なし
2. 主症状　下痢、嘔気、発熱、嘔吐等

3　原因施設

1. 施設名　ＳＵＳＨＩ＆ＷＩＮＥＤＩＮＩＮＧ　ＴＥＮＴＯ(スシアンドワインダイニング　テント)
2. 営業の種類　飲食店営業
3. 営業所所在地　広島市

4　原因食品　令和５年１２月２２日(金曜日)夜に提供された食事

　季節の宴コース

（カニのシーザーサラダ、刺身盛り合わせ、蒸し牡蠣、魚の煮付け、牛のステーキ、穴子の天ぷら、エビとホウレン草のパスタ、デザート、握り寿司）

5　病因物質　ノロウイルス

6　保健所の対応

1. 患者の発症状況及び喫食状況等の調査
2. 原因施設の立入調査・指導

⑶ 検体採取（検査機関：広島市衛生研究所）

グラフィカル ユーザー インターフェイス, アプリケーション

自動的に生成された説明

**■****愛媛県松山市の居酒屋で8人がノロウイルス食中毒 同店には2日間の営業停止処分【愛媛】**

**12/27(水) 16:34配信　あいテレビ****愛媛県松山市**

**ノロウイルス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/f26594f9d18c49b02c58e901037d93c4f5063177>

**食中毒が発生しました　2023/12/27　愛媛県松山市**

**ノロウイルス**

<https://www.city.matsuyama.ehime.jp/hodo/202312/shkuchudoku4.html>

概要

　令和5年12月19日（火曜日）10時52分頃、市内の医療機関から「下痢症状を呈した患者を診察したところ、12月15日（金曜日）の夜に『ひなた』で会食をしており、同席していた複数名が消化器症状を呈しているようである」と連絡がありました。

　市保健所が、当該グループと施設を調査したところ、他グループにも発症者がいるのが判明し、3グループ8名に同様の症状を確認しました。

　発症者全員の共通行動と共通食が12月15日（金曜日）の夜にこの施設で提供された食品しかないこと、発症者の便からノロウイルスが検出されたこと、発症者の症状、潜伏時間、喫食状況など疫学的調査の結果から、「ひなた」が12月15日（金曜日）の夜に提供した食事が原因の食中毒と断定しました。

　このため、食品衛生法に基づき、同施設を12月27日（水曜日）から12月28日（木曜日）までの2日間の営業停止処分とし、食品の衛生的な取り扱いの徹底を文書で指導しました。

　 発症者はおおむね回復しています。

発生状況

喫食日時：令和5年12月15日（金曜日）

喫食者数：17グループ97名

発生日時：令和5年12月16日（土曜日）14時～令和5年12月17日（日曜日）18時

発症者数：3グループ8名（男性6名(22歳～61歳)、女性2名(28歳、53歳)）

受診者数：6名（男性4名(24歳～61歳)、女性2名(28歳、53歳))、市内6医療機関

主な症状：吐き気、下痢、腹痛など

原因施設

屋　号：ひなた

業　種：飲食店営業

所在地：松山市

原因食品　令和5年12月15日（金曜日）の夜に提供された食事

行政処分

食品衛生法に基づき、同施設を令和5年12月27日（水曜日）から12月28日（木曜日）まで2日間の営業停止処分

病因物質　ノロウイルス

主な提供メニュー

<https://www.city.matsuyama.ehime.jp/hodo/202312/shkuchudoku4.files/1227menu.pdf>

付出　煮物

刺身　タイ、カンパチ、ハマチ、サーモン、サワラ、あこう、ヒオウギガイ、たこ

鍋料理　牛すき鍋

サラダ　豚肉の温しゃぶサラダ、彩フレッシュサラダ

焼き物

ヒオウギガイの味噌バター焼き、鮭の味噌焼き、ネギ入り玉子焼き、タチウオの塩焼き

揚げ物、

タチウオと野菜の天ぷら、きのこと大葉のかき揚げ、鶏の唐揚げ、揚げ出し豆腐

蒸し物　サワラの蒸し物 きのこと柚子風味

ご飯もの　寿司、鶏そぼろご飯、じゃこ天大場チャーハン

汁物　うしお汁

デザート　さつまいもハニーバター、 アイス

**■坂出市の有料老人ホームで職員や入所者28人がノロウイルスによる食中毒**

**12/27(水) 15:42配信　KSB瀬戸内海放送****香川県坂出市**

**ノロウイルス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d488e49c685af21c05545de154bf5e14ed02ea4d>

**食中毒が発生　2023/12/27　香川県坂出市**

**ノロウイルス**

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/eisei/shokuhin/syokuanzen/syokucyudoku20231227.html>

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/44727/1227syokutyudoku.pdf>

１ 概 要

令和５年 12 月 23 日（土）13 時頃、坂出市内の介護付有料老人ホームの職員から「入所者及び職員が嘔吐・下痢の症状を呈している。」旨の連絡が中讃保健所にありました。

中讃保健所が調査したところ、この介護付有料老人ホーム等の給食調理を受託している株式会社サンフードサービスが調理提供した給食を喫食した入所者等のうち、28 名が 12 月 21 日（木）から嘔吐、下痢等の症状を呈していることが判明しました。

これら患者に共通する食事は、当該給食施設の食事に限られていること、患者及び調理従事者の検便からノロウイルスが検出されたこと、患者の症状及び潜伏期間がノロウイルスによる食中毒と一致していること並びに患者を診察した医師から食中毒患者等届出票が提出されたことから、中讃保健所は当該給食施設を原因とする食中毒と断定し、飲食店営業を停止する処分を行いました。

なお、患者は快方に向かっています。

２ 摂食者数　154 名

３ 患 者 数　28 名（男性８名、女性 20 名。うち 27 名が医療機関を受診。入院なし。）

４ 原因施設

　所在地　坂出市

施設名　サンフードサービス京町

５ 症 状　嘔吐、下痢等

６ 検 査　検査中（検査機関：香川県環境保健研究センター）

患者便：10 検体、従業員便：７検体、使用水：１検体、調理器具等拭き取り：10 検体、

食品：８検体

７ 原因食品　調査中

（12 月 20 日（水）に提供された食事：チキンライス、チキン南蛮、えびフライ等）

８ 病因物質　ノロウイルスＧⅡ

９ 行政処分（処分庁：中讃保健所）

令和５年 12 月 27 日（水）から 12 月 29 日（金）までの３日間の飲食店営業の停止処

分

10 参考事項（食中毒発生状況（前日まで））

**■7～48歳の20人食中毒、下痢や発熱…焼き鳥店・営業停止**

**12/27(水) 12:02配信　読売新聞オンライン　香川県高松市**

**ノロウイルス・カンピロバクター**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a74105d4672015e62364e9542f396dc163ff3a83>

**高松市で集団食中毒　飲食店利用のスポーツ少年団２０人が腹痛など訴え　ノロウイルスなどを検出【香川】　12/26(火) 18:05配信　OHK岡山放送　香川県高松市**

**ノロウイルス・カンピロバクター**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/965fe10ff14ec59449f7c7eb015aeebff2b3f2c7>

**食中毒発生状況について　2023/12/27****香川県高松市**

**ノロウイルス・カンピロバクター**

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/jigyosha/kankyo_eisei/shokuhin/shokuchudoku/hassei_jokyo.html>

　発生年月日　2023/12/17

　摂食者数　33

　患者数　20

　原因食品　12月17日に提供された食事

　病因物質　ノロウイルスGⅡ／カンピロバクター・ジェジュニ

　原因施設　飲食店

　摂取場所　飲食店

**食中毒が発生　2023/12/26　香川県高松市**

**ノロウイルス・カンピロバクター**<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/jigyosha/kankyo_eisei/shokuhin/press/eisei_up20230125.files/gaiyou.pdf>

　１ 概要

令和５年12 月21 日（木）10 時半頃、グループの代表者から、「グループで飲食店を利用した後、体調を崩した者が複数いる。」旨の連絡がありました。

このグループ（７～52 歳 男性19 名、女性14 名）を調査したところ、12 月17 日（日）に、郷東町にある「焼鳥山椒 西店（郷東店）」を利用しており、33 名中20 名（７～48 歳 男性12 名、女性８名）が下痢、発熱、腹痛、嘔吐などの食中毒様症状を呈していることが判明しました。

この 20 名の有症者に共通する食事は、この施設で提供された食事しかないこと、有症者のうち７名の便からノロウイルス、５名の便からカンピロバクター・ジェジュニが検出され、有症者の症状及び潜伏期間がノロウイルス又はカンピロバクターによるものと一致したこと、有症者のうち 14 名が医療機関を受診しており、診察した医師から食中毒患者届出票が提出されたことから、当該施設が提供した食事を原因とする食中毒と断定し、令和５年12 月26 日（火）から令和５年12 月28 日（木）までの３日間の飲食店営業の停止処分としました。

なお、入院患者はなく、全員快方に向かっています。

２ 摂食者数 33 名

３ 有症者数 20 名

４ 原因施設

所在地 高松市

施設名 焼鳥山椒 西店店（郷東店）

５ 献立内容　サラダ、刺身、焼鳥、出汁巻き、唐揚げ、ラーメン、炊き込みご飯など

６ 検体　調理器具等のふき取り（包丁、冷蔵庫の取っ手など10 検体）

　　　　　従業員便（３検体）

有症者便（13 検体）

検査機関 高松市保健所 他

７ 原因食品 調査中

８ 病因物質　ノロウイルスGⅡ、カンピロバクター・ジェジュニ

９ 行政処分

令和５年12 月26 日（火）から121212 月28 日（木）までの３日間の飲食店営業の停止処分

10 参考事項

今年の食中毒発生件数及び患者数（今回を除く）

２件 10 名（うち死者０名、香川県全体では 10 件 91 名）

昨年の食中毒発生件数及び患者数

１件 ２名（うち死者０名、香川県全体では ５件 53 名）

**■宴会で食中毒　寿司や天ぷらを食べて12人が体調不良　従業員の便から“ノロウイルス”　北海道　12/26(火) 15:41配信　STVニュース北海道****北海道置戸町**

**ノロウイルス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/ce0f2fd245b1d2c3d122dfda46e68bcf5f5638c5>

**忘年会で”ノロウイルス”食中毒 職場の12人が下痢・発熱・嘔吐…便からウイルス検出 寿司や刺身を提供 北海道置戸町の飲食店が3日間の営業停止処分**

**12/26(火) 15:16配信　北海道ニュースUHB****北海道置戸町**

**ノロウイルス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/f9e1a77581b4857cb65046657914bd3456e94567>

**食品衛生法違反者等の公表について（令和5年12月26日公表）　北海道置戸町**

**ノロウイルス**

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kse/sho/tyu/175205.html>

1.探知

令和5年12月20日(水)午後5時30分頃、常呂郡置戸町内の飲食店で会食した団体から、参加者複数名が胃腸炎症状を呈し、医療機関を受診した旨、北見保健所あてに連絡があった。

2.概要

令和5年12月15日(金)に常呂郡置戸町内の飲食店で調理・提供された食事を喫食した利用者25名中12名が12月17日(日)午前1時頃から下痢、発熱、嘔吐等の症状を呈し、うち2名が医療機関を受診した。

北見保健所の調査の結果、有症者の共通食は当該飲食店において提供された食事に限られること、有症者及び調理従事者便からノロウイルスが検出されたことから、同保健所は本日、当該飲食店を原因施設とする食中毒と断定した。

3.発生日時（初発）令和5年12月17日（日）午前1時00分頃

4.有症者数　12名（通院者2名、入院者0名）※有症者は全員ほぼ回復した。

5.症状　下痢、発熱、嘔吐等

6.病因物質　ノロウイルス

7.原因施設

(1)施設名：いなだ屋

(2)所在地：常呂郡置戸町

(4)業種：飲食店営業

8.原因食品　当該施設が12月15日(金)に調理・提供した食事

※提供メニュー

生寿司（ブリ、ホタテ、カレイ）、天ぷら（タチ、エビ、餅）、陶板焼き、刺身（サーモン、ホタテ、かんぱち、甘エビ）、鉄砲汁（カニの味噌汁）、たこわさ、そば、酢牡蠣、先付け（ツブ貝、煮エビ）等

9.対応

北見保健所は、食品衛生法第60条第1項に基づき、営業者に対し、令和5年12月26日(火)から28日(木)までの3日間、営業停止を命ずるとともに、施設内の清掃消毒の徹底、従業員の衛生教育、衛生管理計画の作成などを指示した。

10.その他

当該施設は、12月23日(土)から営業を自粛している。

（問い合わせ先）

北海道オホーツク総合振興局保健環境部北見地域保健室（北海道北見保健所）

(電話)0157-24-4171

**★寄生虫による食中毒★**

**■食品衛生法違反者等の公表　2024/1/5　江戸川区**

**アニサキス**

<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e055/kenko/eisei/shokuhin/ihan.html>

<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/documents/8048/202312kouhyou.pdf>

　公表年月日　令和６年１月５日

業種等　飲食店営業

施設名称　源八船頭

施設所在地　東京都江戸川区

営業者氏名　株式会社 源八船頭

主な適用条項　食品衛生法第６条違反による、同法第 60 条第１項の適用

不利益処分等を行った理由　食中毒の発生

不利益処分等の内容　営業の一部停止（１日間）

＜一部停止となる営業の内容＞

生食用鮮魚介類（冷凍品を除く。）の調理、提供。

なお、冷凍品とは－20℃以下で 24 時間以上の冷凍をしたものをいう。

食中毒の原因　アニサキス

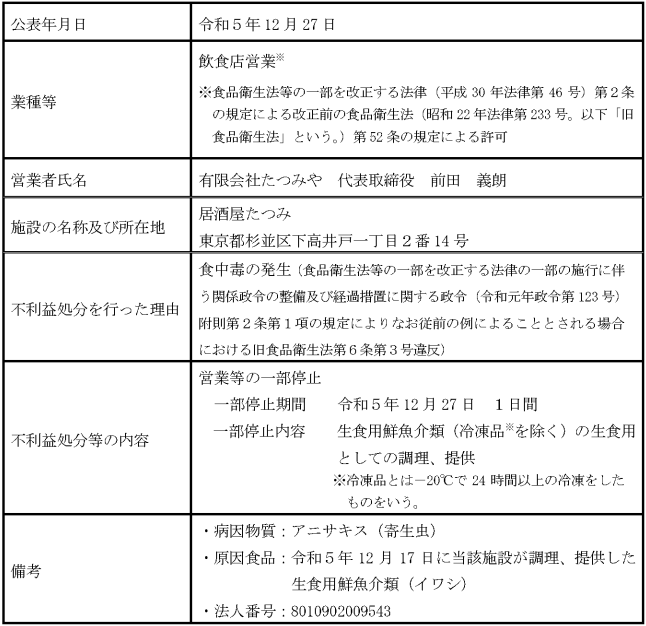
原因となった食品　令和５年 12 月 20 日に当該施設が調理提供した寿司

備考　患者数 １名

**■不利益処分等のお知らせ　2023/12/27　杉並区**

**アニサキス**

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/022/061/r51227-1kouhyou.pdf>



**■ヒラメの寄生虫「クドア」が原因か？　横須賀のホテルで飲食した６０人が食中毒**

**12/26(火) 22:21配信　カナロコ by 神奈川新聞　神奈川県横須賀市**

**クドア・セプテンクタータ**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/73d2be7f8a44d5b65141a2f042922e10f0fe7fb7>

**★自然毒による食中毒★**

**■**

**★化学物質による食中毒★**

**■**

**★細菌による感染症★**

**■腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者の発生について（令和5年12月26日）　熊本県**

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/30/192877.html>

<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/237705.pdf>

　○ １２月２１日、腸管出血性大腸菌感染症の届出があり、１２月２５日に溶血性尿毒症症候群（ＨＵＳ）を発症した患者の連絡がありました。本事例は、腸管出血性大腸菌感染症としては今年３２例目で、ＨＵＳを発症したものとしては今年３例目です。

○ ＨＵＳは、様々な原因によって生じる血栓性微小血管炎（血栓性血小板減少性血管炎）による急性腎不全であり、発症した患者の致死率は１～５％とされています。

○ 今回は感染経路不明ですが、腸管出血性大腸菌（Ｏ１５７）感染症は汚染食品からの感染が主体であるため、調理や食事前の手洗い、食品の十分な加熱（75℃で１分以上）、調理器具の洗浄等の注意が必要です。

＜患者の概要＞

（１） 患者　女性（１３歳）、阿蘇郡在住

（２） 症状　腹痛、水様性下痢、血便、溶血性尿毒症症候群（ＨＵＳ）等

（３） 経過

１２月１７日：軽い吐気あり。

１２月１８日：吐気はおさまるが腹痛と下痢症状が続くため、阿蘇郡内のＡ医療機関を受診。

１２月１９日：血便を認めＡ医療機関を再受診後、Ａ医療機関の紹介で熊本市保健所管内のＢ医療機関を受診。

１２月２１日：検便検査の結果、腸管出血性大腸菌Ｏ１５７の感染とベロ毒素を確認。

１２月２５日：症状が悪化し、Ｂ医療機関を再受診。ＨＵＳ発症を確認。現在入院治療中。

※県内における腸管出血性大腸菌による感染者数

令和５年 ３２人（患者 ２１人、無症状病原体保有者 １１人）

昨年同時期 ４５人（患者 ２２人、無症状病原体保有者 ２３人）

◆令和４年の合計：４５人（患者 ２２人、無症状病原体保有者 ２３人）

**■腸管出血性大腸菌感染症の発生について（令和５年 第８報）　2023/12/26　福井県**

**感染症　腸管出血性大腸菌Ｏ１５７**

<https://www2.pref.fukui.lg.jp/press/atfiles/pa1217035491890f.pdf>

　１ 概 要

令和５年１２月２５日、県内の医療機関から、患者から腸管出血性大腸菌Ｏ１５７およびベロ毒素を検出した旨、届出があり、患者の健康状態、行動等についての調査を実施した。

２ 患者等の状況

1. 患 者：県内在住の女性 １人

症 状：腹痛、血便があったが、回復してきている。

ダイアグラム, テーブル

自動的に生成された説明

1. 接触者の健康状況　５人症状なし。（５人に対し検便実施）

　３ 発生に伴う対応

1. 本人の健康状態、行動および喫食状況を調査
2. 衛生教育の実施
3. 自宅等の消毒の指示 ※食中毒については、その可能性も含め医薬食品・衛生課（0776-20-0354） で調査中です。

４ 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況 テーブル

自動的に生成された説明

**★ウイルスによる感染症★**

**■青森県立中央病院の入院患者56人に感染性胃腸炎の疑い**

**1/4(木) 10:42配信　青森放送　青森県青森市**

**感染症　感染性胃腸炎**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/92c49f4671963366abdaa2a415b1dae6beb5f327>

　青森県病院局は先月31日から今月3日にかけて青森県立中央病院の入院患者56人におう吐や下痢などの感染性胃腸炎が疑われる症状が出たと発表した。現在青森市保健所による原因などの調査が行われている。調査結果が判明するまで入院患者への食事については病院のちゅう房で調理したものではなく保存食などを提供して対応する。

**■盛岡市の教育保育施設で感染性胃腸炎集団発生　岩手県内27件目　園児と職員合わせて13人に下痢や嘔吐の症状　全員回復傾向　2023/12/28(木) 18:41配信　IBC岩手放送**

**岩手県盛岡市　佐藤先生からいただいた情報です**

**感染症　感染性胃腸炎**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/14e2d72cfc7b5576a063d932e710c5d4325be0a4?source=sns&dv=pc&mid=other&date=20231228&ctg=loc&bt=tw_up>

　　盛岡市内の教育・保育施設で感染性胃腸炎が集団発生し、園児ら13人が下痢や嘔吐の症状を訴えました。今年度岩手県内で起きた感染性胃腸炎の集団発生は27件（うち盛岡市16件）です。去年の同じ時期は38件でした。

盛岡市保健所によりますと、盛岡市の教育・保育施設で12月18日から25日にかけて、園児12人と職員1人の合わせて13人が下痢や嘔吐の症状を訴えました。この施設は園児と職員合わせて50人以上の規模があり、重症者はなく全員が回復または回復傾向にあるということです。

感染経路を調べたところ、体調不良者の施設利用や排せつ物の処理後の手洗いで一部不十分な点があったとして、この施設に対して再度手洗いの徹底と消毒方法の確認を行い、二次感染予防対策について指導を行ったということです。

**■感染性胃腸炎の集団発生について　令和５年１２月２７日 １５：３０現在**

**保健医療局 健康医療部 保健予防課　福岡県福岡市**

**感染症　ノロウイルス**

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/116235/1/051227noro.pdf?20231228150248>

城南区内の高齢者施設で、複数の入所者及び職員が嘔吐、下痢等の症状を呈しているとの報告があり、医療機関による検査の結果、ノロウイルスが検出された。

１ 城南区内の高齢者施設

（１）経緯

１２月２１日（木）４名の入所者に嘔吐、下痢等の症状が出現。

以後、複数の入所者及び職員に嘔吐、下痢等の症状が出現。

１２月２６日（火）当該施設より、複数の入所者及び職員が嘔吐、下痢等の症状を呈しており、医療機関による検査の結果ノロウイルスが検出されたと報告があった。

城南保健所が感染拡大防止及び患者等の健康観察の実施を指導した。

１２月２７日（水）城南保健所が有症状者の発生状況を確認するとともに、感染拡大防止について再度指導した。

（２）有症状者の区分 ※( )内の数は、有症状者のうち、ノロウイルスが検出された人数

テーブル

自動的に生成された説明

テーブル

自動的に生成された説明

（３）有症状者の発症状況

テーブル

自動的に生成された説明

（４）症状　嘔吐、下痢、発熱、腹痛

※入所者１名が入院治療中だが、快方に向かっている。

（５）行政対応

① 施設への感染予防及び拡大防止のための指導を実施。

② 入所者及び職員の健康調査及び健康観察を実施するよう施設へ指導。

**■感染性胃腸炎の集団発生について　令和５年１２月２6日 １５：0０現在**

**保健医療局 健康医療部 保健予防課　福岡県福岡市**

**感染症　ノロウイルス**

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/116235/1/051226noro.pdf?20231228150248>

中央区内の保育施設で、複数の園児及び職員が嘔吐、下痢等の症状を呈しているとの報告があり、行政検査の結果、ノロウイルスが検出された。

１ 中央区内の保育施設

（１）経緯

１２月１７日（日）１名の園児に嘔吐、下痢の症状が出現。

以後、複数の園児及び職員に嘔吐、下痢等の症状が出現。

１２月２２日（金）当該施設より、複数の園児及び職員が嘔吐、下痢等の症状を呈していると報告があった。

中央保健所が感染拡大防止及び患者等の健康観察の実施を指導した。

１２月２５日（月）行政検査の結果、ノロウイルスが検出された。

中央保健所が有症状者の発生状況を確認し、感染拡大防止を再度指導した。

１２月２６日（火）中央保健所が有症状者の発生状況を確認するとともに、感染拡大防止について改めて指導した。

（２）有症状者の区分 ※( )内の数は、有症状者のうち、ノロウイルスが検出された人数

テーブル

自動的に生成された説明

テーブル

自動的に生成された説明

（３）有症状者の発症状況



（４）症状　嘔吐、下痢、発熱、腹痛 ※重症者はなく、全員快方に向かっている。

（５）行政対応

① 施設への感染予防及び拡大防止のための指導を実施。

② 園児及び家族、職員の健康調査及び健康観察を実施するよう施設へ指導

**■園児１６人が嘔吐や下痢　教育・保育施設で感染性胃腸炎の集団発生＜岩手・盛岡市＞**

**12/26(火) 21:20配信　岩手めんこいテレビ　岩手県盛岡市**

**感染症　感染性胃腸炎**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a18b59632b5f809dc9080aa5b25b55d29e1e0504>

**■感染性胃腸炎の集団発生について　2023/12/25　栃木県**

**感染症　ノロウイルス**

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/e04/kansensaiyou/documents/20231225kansenseiichouen.html>

　概 要

感染症名：感染性胃腸炎(5類感染症)【原因病原体：ノロウイルス】

・集団発生の時期：令和5(2023)年12月13日(初発)

・集団発生の場所：県北健康福祉センター管内の認定こども園

・発症の状況：令和5(2023)年12月13日～令和5(2023)年12月25日、計38名（園児33名、職員5名）

・経過：

　　　 令和5(2023)年12月20日、県北健康福祉センターは、管内の認定こども園において複数の園児及び職員が、嘔吐、下痢等の症状を呈している状況を探知し、同日、同センターで調査及び指導を実施した。

また、12月21日に保健環境センターにおいて4名の検体（便）の検査を実施した結果、4名の検体からノロウイルスが検出された。重症者はなく、発症者は全員快方に向かっている。

県の対応

　 県北健康福祉センターでは、当該情報の探知後、当該施設における予防対策（園児及び職員の健康管理、手洗い等の励行、汚物等の適切な処理等の迅速な対応）及び消毒について、指導等を実施するとともに、当該施設における発症者等の調査、原因追及のための感染源の調査を実施した。

栃木県内で報告のあった感染性胃腸炎集団発生（30名以上の患者報告数）状況（宇都宮市を含む）

平成30年 8施設（障害者施設1、小学校2、中学校1、保育所3、幼稚園1）

令和元年10施設（高齢者施設1、障害者施設1、小学校1、学校1、保育所6）

令和2年0施設

令和3年12施設（障害者施設1、保育所7、認定こども園4）

令和4年3施設（保育所2、認定こども園1）

令和5年15施設（高齢者施設1、保育所7、認定こども園7）※今回発生事例含む

**■結核集団感染事例について　令和５年１２月２５日 １５時**

**福岡市保健医療局保健予防課　福岡県福岡市**

**感染症　結核**

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/116235/1/051225tb.pdf?20231228150248>

市内保健所に肺結核患者の届出があり、市内の事業所における接触者への健康診断等により、　　これまでに結核患者５名が確認され、結核集団感染事例として、厚生労働省に報告しましたので、お知らせします。

１ 経 緯

（１）初発患者（２０代、男性）は、令和５年５月下旬に咳、発熱、体重減少が出現。症状が続くため、７月中旬に市内の医療機関を受診したところ、検査の結果肺結核と診断を受け、８月１０日に市内保健所へ届出があった。

（２）令和５年９月より、患者が勤務する市内の事業所における接触者（８人）への健康診断等により、令和５年１２月２５日現在、結核患者５名が確認された。

テーブル

自動的に生成された説明

２ 結核患者等の概要

○現時点で、初発患者を除き患者５名。（外国籍４名、日本国籍１名で、いずれも同僚）結核菌の遺伝子型別検査を実施したところ、初発患者の結核菌と遺伝子型が一致したため、同一の感染源による感染と判断。

○初発患者含む患者および感染者は治療中であるが、重症ではない。結核集団感染とは、厚生労働省が定める基準において、同一の感染源が２家族以上にまたがり、２０人以上に結核を感染させた場合をいい、患者１人は６人が感染したものとして感染者数を計算することとなっている。

テーブル

自動的に生成された説明

　　※「患者」とは、結核菌が体内で増えて病気を引き起こした状態にある者をいい、発病初期は、他者に感染させることは少ないが、病状の進行に伴い、咳や痰の中に結核菌が排菌されると他者に感染させることがある。

３ 行政対応

○患者の健康調査、接触者調査及び感染拡大防止の指導を実施。

○治療中の患者に対して、服薬継続が確実に行われるよう支援を実施。

○初発患者は一時入院治療していたが、現在は軽快し通院治療中である。また、接触者に対しては健診や継続的な経過観察等を実施しており、現時点では感染拡大の可能性は低い。

**■感染性胃腸炎の集団発生について　2023/12/22　栃木県**

**感染症　ノロウイルス**

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/e04/kansensaiyou/documents/20231222kansennseiichouen.html>

　概 要

感染症名：感染性胃腸炎(5類感染症)【原因病原体：ノロウイルス】

・集団発生の時期：令和5(2023)年12月14日(初発)

・集団発生の場所：県北健康福祉センター管内の保育所

・発症の状況：令和5(2023)年12月14日～令和5(2023)年12月22日、計30名（児童30名）

・経過：

　　　令和5(2023)年12月20日、県北健康福祉センター管内の保育所から複数の児童が、嘔吐、下痢等の症状を呈しているとの連絡があり、同日、同センターで調査及び指導を実施した。

　　　 また、12月21日に保健環境センターにおいて3名の検体（便）の検査を実施した結果、2名の検体からノロウイルスが検出された。重症者はなく、発症者は全員快方に向かっている。

県の対応

　 県北健康福祉センターでは、当該情報の探知後、当該施設における予防対策（児童及び職員の健康管理、手洗い等の励行、汚物等の適切な処理等の迅速な対応）及び消毒について、指導等を実施するとともに、当該施設における発症者等の調査、原因追及のための感染源の調査を実施した。

栃木県内で報告のあった感染性胃腸炎集団発生（30名以上の患者報告数）状況（宇都宮市を含む）

平成30年 8施設（障害者施設1、小学校2、中学校1、保育所3、幼稚園1）

令和元年10施設（高齢者施設1、障害者施設1、小学校1、学校1、保育所6）

令和2年0施設

令和3年12施設（障害者施設1、保育所7、認定こども園4）

令和4年3施設（保育所2、認定こども園1）

令和5年14施設（高齢者施設1、保育所7、認定こども園6）※今回発生事例含む

**■感染性胃腸炎患者等の集団発生について　2023/12/22　北海道小樽市**

**感染症　ノロウイルス**

<https://www.city.otaru.lg.jp/docs/2023081500038/>

　小樽市内で感染性胃腸炎患者及びその疑いのある者が発生したのでお知らせします。

発生の概要

施設種別　社会福祉施設

患者数　19

保健所受理日　2023/12/11

確認したウイルス　ノロウイルス

**★その他の感染症★**

**■**

**★違反食品・回収等★**

**■違反食品等に対する行政処分等　2023/12/29　大阪府大阪市**

<https://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000231068.html>

　公表年月日：令和5年12月29日

　違反食品名等

　　品名 活ひらめ（生食用）

ロット番号等 届出受付番号：第92007110860号1欄

輸出国　韓国

　輸入施設

　　輸入者　株式会社KD FOOD

所在地　大阪市中央区島之内1－7－23

　違反の理由　食品衛生法第13条第2項違反

違反の内容

食品一般の成分規格（食品は、抗生物質又は化学的合成品たる抗菌性物質（ベンジルペニシリン）を含有してはならない）に適合していない。（ベンジルペニシリン（0.106ppm）を検出した。）

行政処分等の内容　回収命令

備考　福岡検疫所が実施したモニタリング検査により発見。

**■県内産ニラから栽培適用外の農薬成分を検出　健康被害のおそれはなし【高知】**

**12/29(金) 18:15配信　RKC高知放送　高知県**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/3050a032d7c09ef26150cdfc53c9e5c0e607c7bb>

**■違反食品等に対する行政処分　2023/12/27　台東区**

<https://www.city.taito.lg.jp/kenkohukusi/kenkokikikanrieisei/food/syokuhineisei/ihansha.html>

　公表年月日　2023/12/27

　輸入者

　　東京都台東区台東四丁目19番5号

有限会社スターインドグロサリー

　業種　食品輸入販売業

　品名

　　「ひよこ豆」（CHANA　DAL）　合成樹脂製袋詰

輸入届出年月日　令和5年7月27日

輸入届出受付番号　第24083135781号3欄

　数量及び重量

　　200kg（10cts）※1kg×20袋／cts

　生産国　インド

　違反内容

　　食品衛生法第13条第3項違反(クロルピリホスを0.02ppm検出)

(当該品について、クロルピリホスが人の健康を損なうおそれのない量として厚生労働大臣が定める量は0.01ppmである。)

　措置　販売禁止

**■【速報】平和堂がノルウェー産塩さばを「国内産」と不適正表示　200パック販売**

**12/26(火) 19:42配信　京都新聞　岐阜県各務原市**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/22cde259b5f4b13f9846fd55ee05838973c2fb4b>

**■阪急うめだ本店の催事で販売　フランスから輸入のパンに「幼虫」混入　販売店が自主回収と返金対応を発表　57個中5個に混入を確認　12/26(火) 19:30配信　MBSニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/7918f2ce19b07ccb694b8164b954e0c0260fe90d>

**■愛知の人気うなぎ店で「産地偽装」地元関係者は「東海産のうなぎは冬はほぼ取れない」と指摘**

**12/29(金) 14:21配信　SmartFLASH**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/1114374e62282fb405c1f60858027d4004022464>

**「三河産ウナギ」偽って販売か　店側“ふるさと納税が影響”　味の違いは?**

**12/26(火) 20:02配信　FNNプライムオンライン（フジテレビ系）**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/093b7372a5cef3ed49a2ee85a25fd4992f155e1a>

**外国産うなぎを「三河産」と偽装の疑い　愛知県警が料理店を家宅捜索**

**12/26(火) 18:26配信　朝日新聞デジタル**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/cb5fabb40a5def3ce351119bc9cca940e44629f5>

**■日本産イチゴが水際検査で不合格 残留農薬の規定違反で 全ロット検査継続／台湾**

**12/26(火) 16:38配信　中央社フォーカス台湾**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/dfbaf8bc2bbcfd9506e98099b57bf78cbc550262>

**■釜揚げしらすに“フグの稚魚”混入か　九州５県で１３１４パック販売　業者が自主回収**

**12/26(火) 15:17配信　TNCテレビ西日本**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/05496bebc80ad6757f786ae5cff35ef904588797>

**■業務スーパーで販売の「ロールケーキ」に基準値超の添加物　保健所が回収命令　東北・関東など約1万4000個出荷　2023/12/27(水) 17:05配信　兵庫県加古川市**

**佐藤先生からいただいた情報です**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d570c45164e11459290aefcce1b7bd94f1151a7c>

**■違反食品等に係る行政処分　2023/12/25　兵庫県加古川市**

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf14/hw14_000000020.html>

　処分年月日　2023/12/25

　業種及び施設名称【営業者名称】等　食品輸入業　株式会社神戸物産

　施設所在地　加古川市加古川町平野125番1

　主な適用条項　法第13条第2項

　行政処分を行った理由

　　　その他の食品（洋菓子）に対し、食品、添加物等の規格基準で規定されるプロピレングリコールとしての基準値（0.60％以下）を超えて使用（検出値0.69％）

　行政処分の内容 回収命令

　対象品等

　　ふんわりミニロールケーキブルーベリー風味（洋菓子）

賞味期限が2024.05.04と表示されたもの

**■医薬品製造業者に対する行政処分について　2023/12/22　福岡県飯塚市**

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/press-release/iyakuhinshobun.html>

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/209127.pdf>

　本日、沢井製薬株式会社に対し、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和３５年法律第１４５号。以下「法」という。）第７２条の２の２及び第７２条の４の規定に基づき、行政処分（改善命令）を発出しましたので、お知らせします。

　なお、これまでに本事案に関連した健康被害は確認されていません。

１　処分対象者　氏名：沢井製薬株式会社

　所在地：大阪府大阪市

2　処分対象施設

　　　名称：沢井製薬株式会社　九州工場

　所在地：福岡県飯塚市

　業態：医薬品製造業（許可番号：40AZ000159）

３　違反内容

（１）テプレノンカプセル５０ｍｇ「サワイ」について、承認書に記載のない方法により試験を行っていた。（法第１８条第３項に基づく法施行規則第９６条違反）

（２）業務を適正に確保するために必要な体制の整備等、所要の措置を講じていなかった。（製造する医薬品について不適切な試験行為が行われていたが、これを探知することができなかった。）（法第１８条の２第３項第２号及び第３号違反）

（３）不適切な試験行為の発端となった逸脱発生当時、製品品質に重大な影響が及ぶ恐れのある事象が発生していたにもかかわらず、所要の措置を講じる指示及び進捗管理を実施していなかった。（法第１７条第８項で準用する法第８条第１項違反）

4　改善命令の内容

（１）法及び関係法令を遵守するよう対応すること。

（２）再び法令違反を起こすことのないような体制を構築すること。

　　ア　責任役員及び各責任者の権限や業務を明確にすること。

　　イ　医薬品製造管理者等が製造部門及び品質部門を適切に監督するとともに、

　　　　製造部門及び品質部門の業務が適切かつ円滑に行われる体制を整備すること。

　　ウ　全ての役職員に継続的に必要な教育訓練を行い、関連法令を遵守させること。　等

5　今後の県の対応

（１）沢井製薬(株)九州工場に対して、改善命令発出から１カ月以内を目途に改善計画書を提出するよう指示しており、当該計画書を確認後、立入調査を行い、改善状況を確認する。

（２）県内の医薬品等製造業者及び製造販売業者に、今回の事例を踏まえ、自己点検を行う等、改めて法令遵守体制の整備や品質管理体制の向上に取り組むよう周知する。

（３）無通告査察の頻度を増やす等、各製造所に対する監視を強化する。

6　参考

行政処分に至るまでの経過

令和５年６月２１日

大阪府からの情報提供により九州工場での不適切な試験についての情報を探知

６月２２日　沢井製薬（株）から不適切な試験について薬務課へ報告

７月３日、４日及び５日　法第６９条に基づく立入検査（ＧＭＰ調査）を実施

７月２６日　調査指摘事項書を交付

８月９日　沢井製薬（株）から重度不備に対する改善報告書を受理

８月１７日

十分な改善がなされていないと判断し、沢井製薬（株）へＧＭＰ不適合を通知

９月６日　法６９条に基づく報告徴収通知を発出

１０月６日　報告徴収通知に基づく報告を受理後、厚生労働省と対応を協議

１２月５日　行政手続法に基づき、弁明の機会の付与の通知

１２月１３日　弁明の意思は無い旨を確認

１２月２２日　行政処分（改善命令）

**■学校給食へのデオキシニバレノール（赤カビ）の混入について　2023/12/1**

**神奈川県藤沢市**

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/gakko-k/press/documents/pressrelease.pdf>

全国農業協同組合連合会岩手県本部が販売した岩手県産小麦の一部において、食品衛生法の定めるデオキシニバレノール（赤カビ）の基準値を超過した小麦があったことが判明し、当該小麦について本市立小学校及び特別支援学校の学校給食で使用していた、という事案が生じましたので、報告いたします。

１．事案の概要

　2023 年（令和５年）１１月２８日（火）午後４時半頃に市内食材納入業者から本市立小学校及び特別支援学校に納品している岩手県産南部小麦粉について赤カビの基準値以上の原料が使用されており、製品を回収する旨の連絡を受けました。同日、同製品の１１月２９日（水）以降の使用を取りやめ、回収し、別製品への変更を行い、対応を図りました。

２．使用小麦粉

商品名：岩手県産南部小麦粉 ２５ｋｇ ロット No.231115、231018

原 料：令和４年産岩手県 JA 花巻管内 藤根ライスセンター

ナンブコムギ １等使用

３．検出量　２.1ｍｇ/ｋｇ（基準値 1.0ｍｇ/ｋｇ）

４．使用学校　小学校２４校、特別支援学校１校（中学校給食の使用はありません。）

５．使用期間　2023 年（令和５年）１０月２５日（水）から１１月２８日（火）

６．使用状況

　　本市では、カレーやシチューなどに、とろみをつける際などに使用しており、児童 1 人あたりの摂取量は少量です。

なお、パンや麺につきましては、専門業者から納入しているため、当該小麦は使用しておりません。

７．児童への健康被害

現時点では、児童からの健康への被害の訴えは確認されていません。

　　※既述のとおり、児童 1 人あたりの摂取量は少量であるため、健康への影響は低いものと考えています。

８．今後の対応

１１月２９日（水）以降の小麦粉については、別の製品に切り替えて使用しています。

【参考】

デオキシニバレノール（DON）とは・・・

穀類(特に小麦、大麦及びトウモロコシ)の赤かび病の病原菌で産生されるかび毒であり、急性毒性としては、嘔吐、消化管、リンパ組織への障害、慢性毒性としては、体重減少などが知られている。（令和２年９月３０日開催の厚生労働省薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会食品規格部会資料１より抜粋）

以上

**★その他関連ニュース★**

**■ホイアン：集団食中毒発生の人気バインミー店、正式に営業再開**

**2024/01/05 04:26 JST配信**

<https://www.viet-jo.com/news/social/240104192908.html>

**■新型コロナ患者報告数が5週連続増加、厚労省　1/4(木) 18:25配信　医療介護ＣＢニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a179bafb9789c2c370958aab09198cf63e929e32>

**■インフル患者減少続く、厚労省　1/4(木) 14:30配信****医療介護ＣＢニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/16b2c23c61faa3c0807beac682c102ef20e71669>

**■東京のコロナ患者報告数、5週連続で増加**

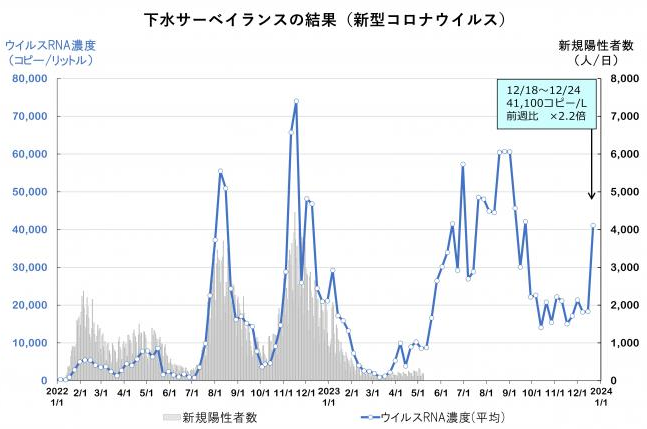
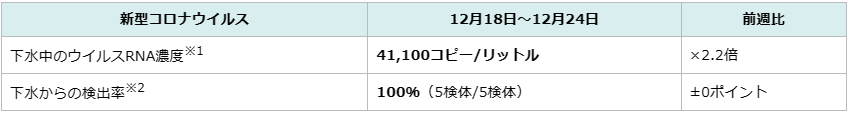
**12/28(木) 16:12配信　医療介護ＣＢニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/2c21fc75acceb4b08d8e22c3c396b28af6cf1b2f>

**■下水サーベイランス　2023/12/26　北海道札幌市**

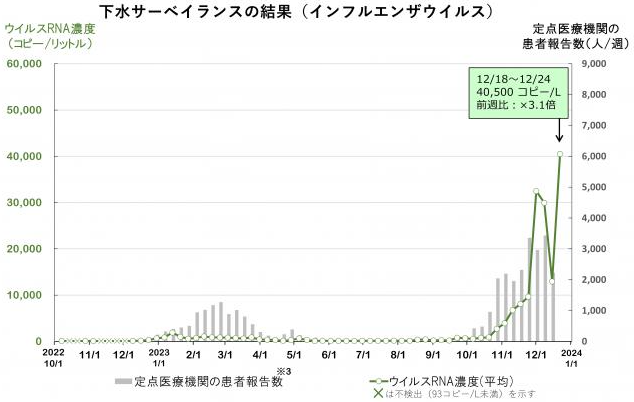
<https://www.city.sapporo.jp/gesui/surveillance.html>

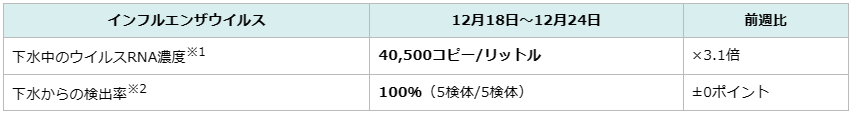
　新型コロナウイルス

ウイルス濃度は前週から2倍以上増加して高い水準を継続しており、今後の動向に警戒が必要です

インフルエンザウイルス





ウイルス濃度は再び高い値まで上昇しており、警戒が必要です。